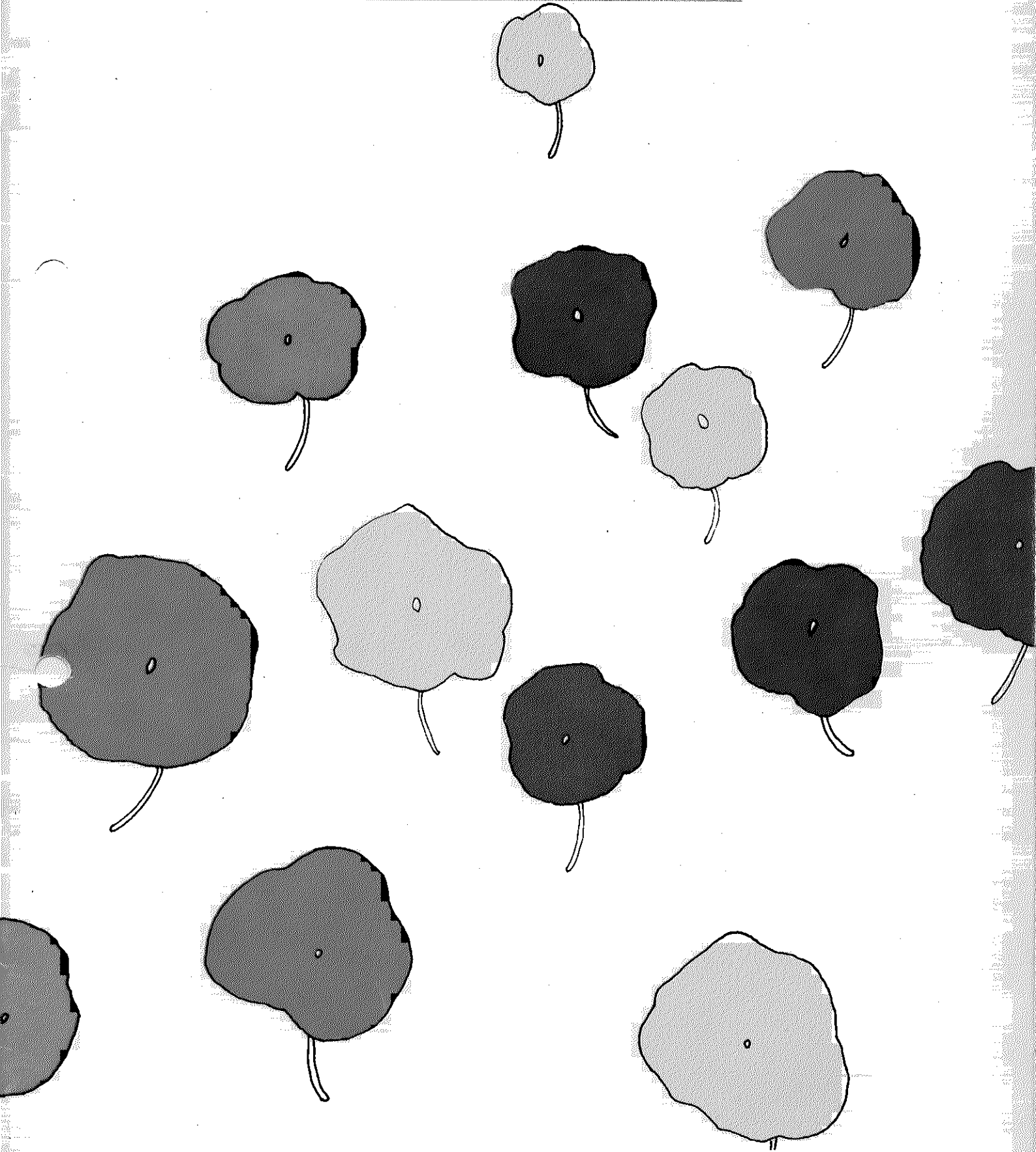


YAMAHA ELECTONE®

C-50・C-50T

ヤマハエレクトーンC-50・C-50Tの手引



YAMAHA ELECTONE C-50・C-50T

エレクトーンC-50・C-50Tの手引

目次

- 1 家庭楽器の王座を占めるエレクトーン
美しい音の秘密 4・5 エレクトーンの音が生まれるまで。
- エフェクトレバーほか 6・7 新しい音をゆたかに創造するエレクトーン。
トーンレバー 8・9 トーンレバーの持つすばらしい音の世界。
オートリズム 10・13 オートリズムのすばらしい効果。
- プリセットトーン 14・15 演奏の表現力がグンと増す装置のかずかず。
エレクトーン専用カセット 16・21 弾く・聴く＝エレクトーンの多彩な楽しみ
にまたひとつ素晴らしい魅力が加わりました。
- カセットテープ 22 レッスン用お楽しみ用テープがこんなに揃
っています。
- サービスについて 23 トラブルの発生にはお買上楽器店でサービ
スを。
- 演奏方法 24・26 さあ演奏に入りましょう。
- 故障でない現象 27・28 こんな場合は故障ではありません。
- お徳なサービス依頼法 29・30 こんなサービスの依頼をなさるとおとくだ
す。
- 完全な保証とサービスシス
テム 31 保証とサービスシステムは完ぺきです。
- エレクトーンの音域 32・33
やさしい調律法 34 だれでも簡単に調律できます。
ヒューズの交換 35 エレクトーンの心臓部もごらんください。
仕様 36 こうして生まれるエレクトーンの美しい音。
アクセサリー 表3 弾く楽しみをさらにひろげるアクセサリー。

家庭楽器の王座を占めるヤマハエレクトーン。



20世紀後半に生まれたエレクトーンが、もうすっかり家庭楽器の王座を占めました。このエレクトーンを持つ音色の多彩さ、変化の豊かさがわたしたちをまったく新しい、音楽のある楽しい夢の世界へと導いてくれたのです

たった一台でいろいろな音が出せ、しかも合奏の効果が楽しめる楽器。演奏が簡単でさぐり弾きでも覚えられる楽器。弾く人の手で気のおもむくままに音色を選び、組み合わせることができる楽器とたくさんの特徴を持つエレクトーンならば当然のことといえましょう。

楽器創り80年以上の歴史を持つ“世界のヤマハ”の豊富な経験によって生まれた、この素晴らしいエレクトーン。

さあ、心ゆくまでお楽しみください。最高の音色で演奏する楽しみが今日からあなたのものです。

各部の名称
音の世界をひろげる
——
各種の機構。

オートリズムセクション

アッパーバーカッシブ

上鍵盤のトーンレバー

フルート、オーボエ、ストリング
音色があります。

プリセットトーン

トレモロ

エレクトーン独特の持続音を
より自然な音にするトレモロ
効果が得られます。

ペダル鍵盤

左足でベースパートを
演奏します。
13鍵1オクターブ
(C-C₁)

マニュアルバランス

アップライトピアノの音

音のカタチと音色を調節する調節の配列が
1オクターブの範囲にあり、
1オクターブの範囲にあり、

● **上鍵盤**
主に右手で、メロディパートを演奏します。
49鍵 4 オクターブ C-c₁

● **下鍵盤のトーンレバー**
下鍵盤には、ウッド、ホルン、チェロの音色があります。

● **ペダル鍵盤のトーンレバー**
ペダル鍵盤にはバスの音色があります。

● **トータルボリューム**
全体の音量を調節することができます。

● **電源スイッチ**

● **リピートスピード**

● **下鍵盤**
主に、左手で伴奏パートを演奏します。
49鍵 4 オクターブ (C-c₃)

● **ニーレバー**
右ヒザで外側へ押すとサステインがかかります。

● **エクスプレッションペダル**
音の強弱、曲の表情は右足のこのペダルでつけます。



美しい音色の秘密 エレクトーンの音が生まれるまで。

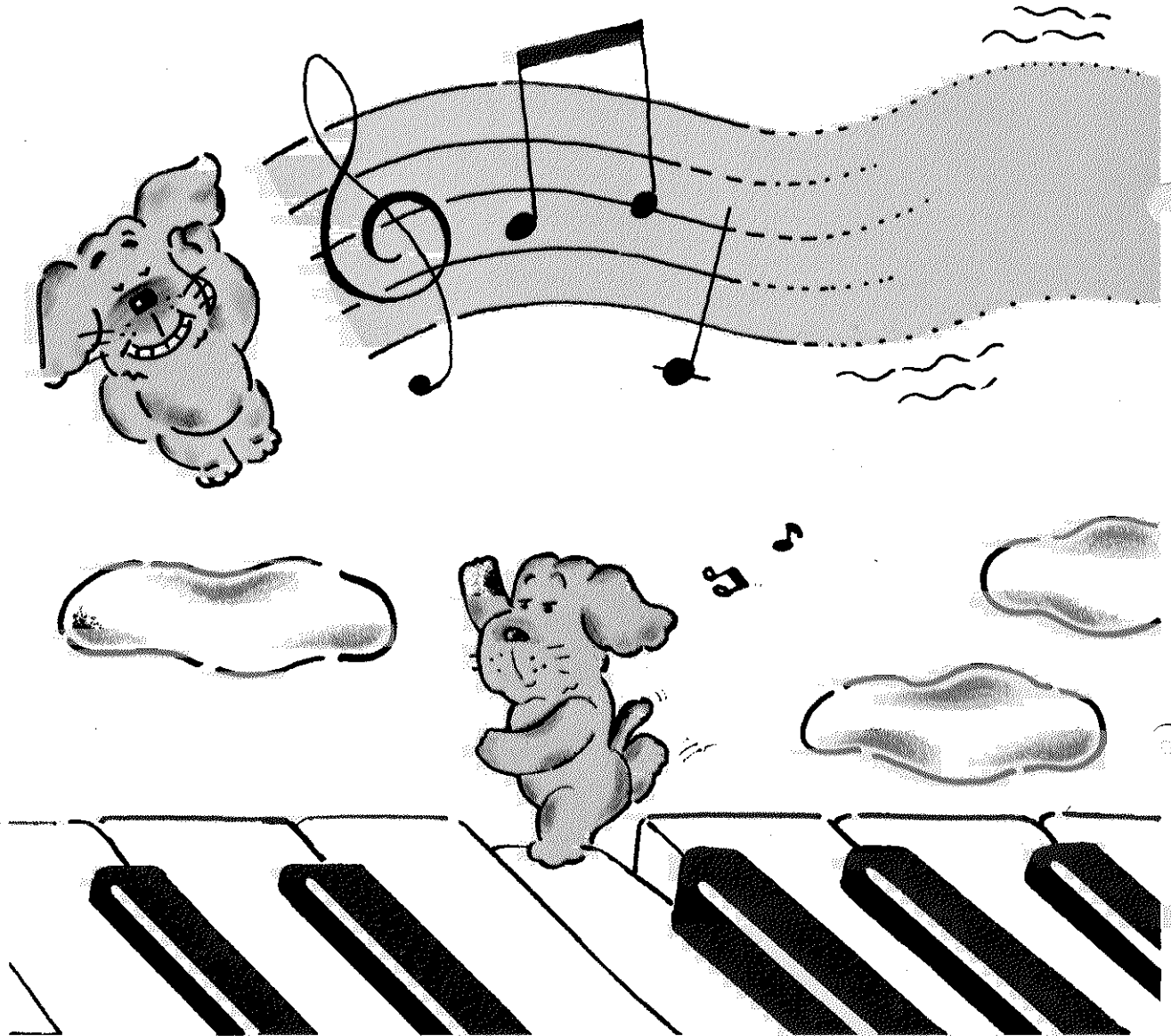
音は空気の振動から—音源回路

私たちが耳にする音は、物体の振動が周辺の空気に作用を及ぼして音を発生するものです。たとえば虫の鳴き声は、二枚の羽根をすり合わせて微妙な空気の振動をおこし、音声を発していることからわかります。

エレクトーンの音も、まず電気の振動をつくりだすことからはじ

まります。この電気の振動がエレクトーンの音の源となり、これを音源回路と呼びます。

普通、私たちの耳で聞き分けられる音は16ヘルツから20,000ヘルツまでといわれていますが、音楽で使用されるのは、そのうちの30ヘルツから4,000ヘルツぐらいまでに集中しています。



ドレミを選ぶ—開閉回路

ヘルツ(Hz)で表わされる電気の振動数を半分に割ると——たとえば4,000ヘルツを2,000ヘルツに——ちょうどオクターブの関係が生じます。

今、仮りに4,000ヘルツがドの音なら2,000ヘルツはそのオク

ーブ下のドになります。ですから最初に一番高い音を決めて、どんどん半分にしていけば正確なスケール(音階)ができあがります。

あとは電気振動を通したり、通さなかったりする鍵盤と開閉回路を結んで目的の音を選ぶだけです。

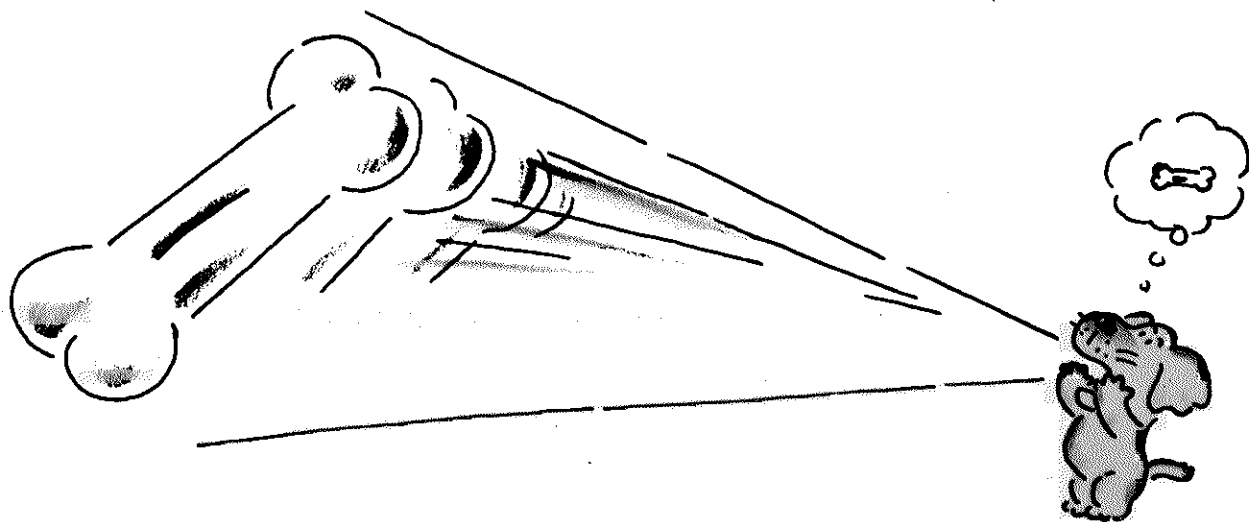
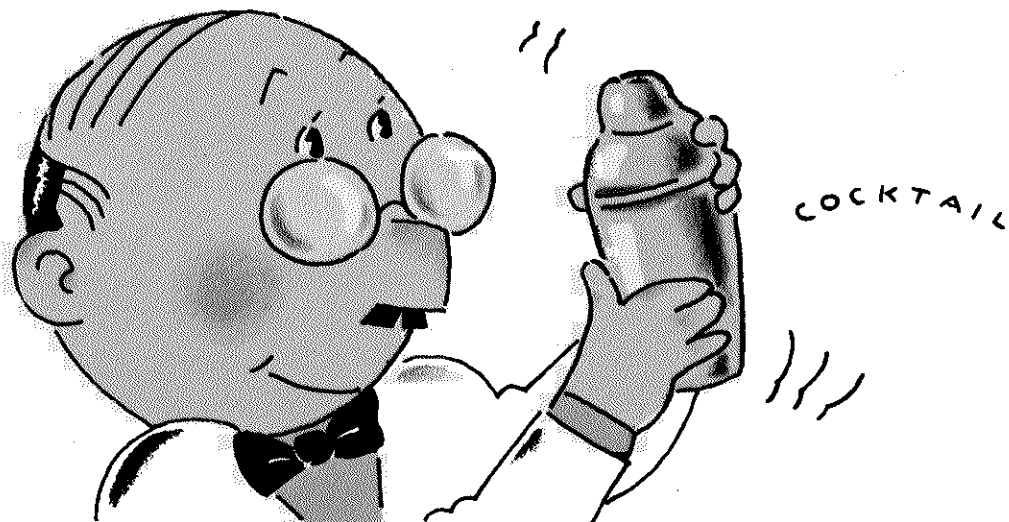
音のカクテル＝音色回路

エレクトーンは1台でいろいろな楽器の音を出すことができます。これはエレクトーンだけの特長です。

たとえばフルートとクラリネットでは同じドの音でも随分違った感じを受けますがこれは楽器の音が基音と倍音で合成されているか

らです。ちょうど同じベース(基音)のカクテルでも加える材料(倍音)で味が違って来るのに似ています。

音色回路はその基音と倍音の関係を変えること——つまり、いろいろな音のカクテルをつくる働きをします。



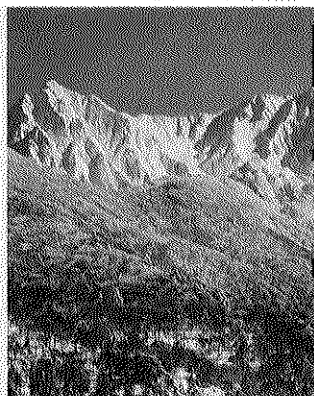
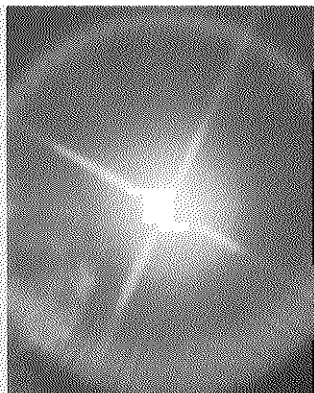
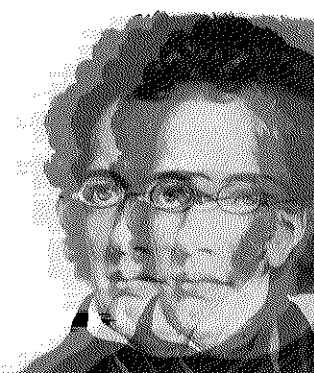
音を拡大する＝増幅回路

音源回路で振動をつくり、開閉回路で取り出され、音色回路で味つけされたドレミは、ここまではまだわずかな電気振動にすぎず、このままでは、まだあなたの耳にとどきません。

増幅回路は、そのかすかな振動

を拡大するところです。さあ、これで電気振動はエネルギーを与えられ、拡大され、スピーカーを高らかにド～レ～ミ～とふるわせ、エレクトーン独特の魅力的な音が生まれるのです。

エフェクトレバーほか 新らしい音をゆたかに創造する効果音。



カプラーについて

トーンレバーには4'、8'などの記号がついていますが、この数字はパイプオルガンのパイプの長さを意味し、異なった数字の組み合わせをすると、1つのキーを押しただけでいくつものキーを押した場合と同じ効果になります。

たとえばフルート8'をいっぱい

におろし、次にフルート16'を入れてみます。そうして演奏した場合1つのキーを押しただけで、フルート8'の音と、その1オクターブ下のフルート16'の音の二重音が出ているというわけです。しかもレバーをどの程度下げるかによって自由に音の強さを加減できますから、いくつもの音色が作りだせます。

エフェクトレバーについて

コントロールパネルの黒及び緑色のレバーは、エレクトーンの音色にさまざまな効果をつけるエフェクトレバーです。

ビブラート

このレバーを入れるとビブラート効果が得られ、音が生き生きと

うるおいます。ビブラートの深さはクリックストップで調整できます。

リピートスピード

このレバーを入れると上鍵盤の音がこまかく断続するようになり、マンドリンに似た効果が得られます。

ブリリアンス

このブリリアンスは、抵抗とコンデンサで構成され高域倍音をどこから切るかによって音の感じを変えます。ブリリアンスレバーをOFFの状態にしますと高域倍音が大巾に切られ、暗い感じになります。レバーをONの状態にしますと高域倍音の切れ方が少なくなり、明るい感じがします。

アッパーパーカッシブ

コントロールパネルの緑色の2%、4'および黒色LENGTHのレバーでこの効果が得られます。緑色のレバーは普通のトーンレバーと同様にお使いいただき、LENGTHレバーでは余韻の長さを変えられます。歯切れのよい演奏をしたいときにお使いいただくわけですが鍵盤を押してそのままにしていないと、余韻はつきません。

コントロールレバーについて

上鍵盤の左側、4つのレバーがコントロールレバーです

ペダルサステイン

ペダルサステインレバーを右にまわすと、キーを離れた後でも余韻が残ります。スローテンポの曲には長く、軽快な曲には短かくかけると効果的な演奏ができます。

Bass8'はサステインをかけると、コントラバスのピチカート奏法の感じがします。

リバーブ

このリバーブの操作により、音響効果のよい室内で聴くような残響を持つようになります。

リバーブレバー、リバーブバランスレバー及びニーレバーによって操作します。REVERBを右にまわし、ニーレバーをひざで動かしてみてください。ふつう、リバーブはニーレバーと併用しますが、リバーブレバーのみでリバーブ効果を得たい時はニーレバーをたたんでください。

残響の長さは、リバーブレバーを右にまわすにつれて長くなります。上鍵盤と下鍵盤のリバーブ効果のバランスは、リバーブバランスレバーを中央より右にまわすと上鍵盤に強く、左にまわすと下鍵盤に強くかかります。

マニュアルバランス

4つ並んだレバーのうち、一番右のレバーです。これは、上鍵盤下鍵盤の音量のバランスをとるためのもので、ふつうは中央位置にしておきます。しかし、例えば上鍵盤がメロディをとり、下鍵盤が伴奏の役を果たしている場合、メロディをもっと引き立たせたいと思う時はこれを右にまわしてバランスをとります。逆に下鍵盤の音が弱すぎたら、左にまわします。

エフェクトタブレットについて

下鍵盤右の3つのタブレットをいいます。

ボイスタブレット

トレモロタブレット、またはコーラストабレットを押した状態にしておいて、メイン及びトレモロに切り替えてみてください。メインの側ではトレモロはかかりませんが、トレモロにすると美しいトレモロやコーラスの効果がかかります。

トレモロタブレット

ボイスタブレットをトレモロの状態にしておいて、このタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーが回転し、豊かなトレモロ効果がかかった演奏が楽しめます。この効果での回転スピードは、ほぼ6.8Hzです。

コーラストабレット

ボイスタブレットをトレモロの状態にして、このタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーがゆっくりと回転して荘厳なコーラス効果のかかった演奏となります。とくにコーラストабレットは宗教曲とかスローな演奏に効果的です。この効果での回転スピードは1Hzです。

なお、トレモロタブレットとコーラストабレットが両方入った状態では、トレモロタブレットの効果が優先します。

その他

トレモロ・スピード

トレモロ効果で得られる、音が回転するような感じを、速くしたり、ゆっくりしたり自由にコントロールできるもので、5.5~6.8Hzのトレモロスピード変化が得られます。

エクスプレッションペダル

音を大きくしたり小さくしたり

して音楽に表情をつけるのがエクスプレッションペダルです。これは右足で踏みます。踏みこめば音は大きくなり、戻せば小さくなります。瞬間的な変化も可能です。

トータルボリューム

コントロールパネルの右側に、VOLUMEと記してあるつまみがトータルボリュームです。これにより全体の音量を可変することができ、エクスプレッションペダルをもっと踏みこんだ時の音量を制御できますので、深夜など、人の迷惑にならないように演奏したい場合には、実際に演奏状態のまま、音量を自由に調整して演奏することができます。

また、エクスプレッションペダルとの併用により、効果的な強弱をつけることも、曲の途中もしくは終りで、P・PP等の最弱音の効果を出したい時も、ボリュームつまみでコントロールできます。

パワースイッチ

スイッチ部分にネオンランプが内蔵しており、電源が入るとランプがつくようになっています。

ドアースイッチ

演奏を終わりスイッチを切り忘れても蓋を閉めれば電源が切れません。切り忘れの心配がまったくありません。

上鍵盤のトーンレバー

●フルート16'

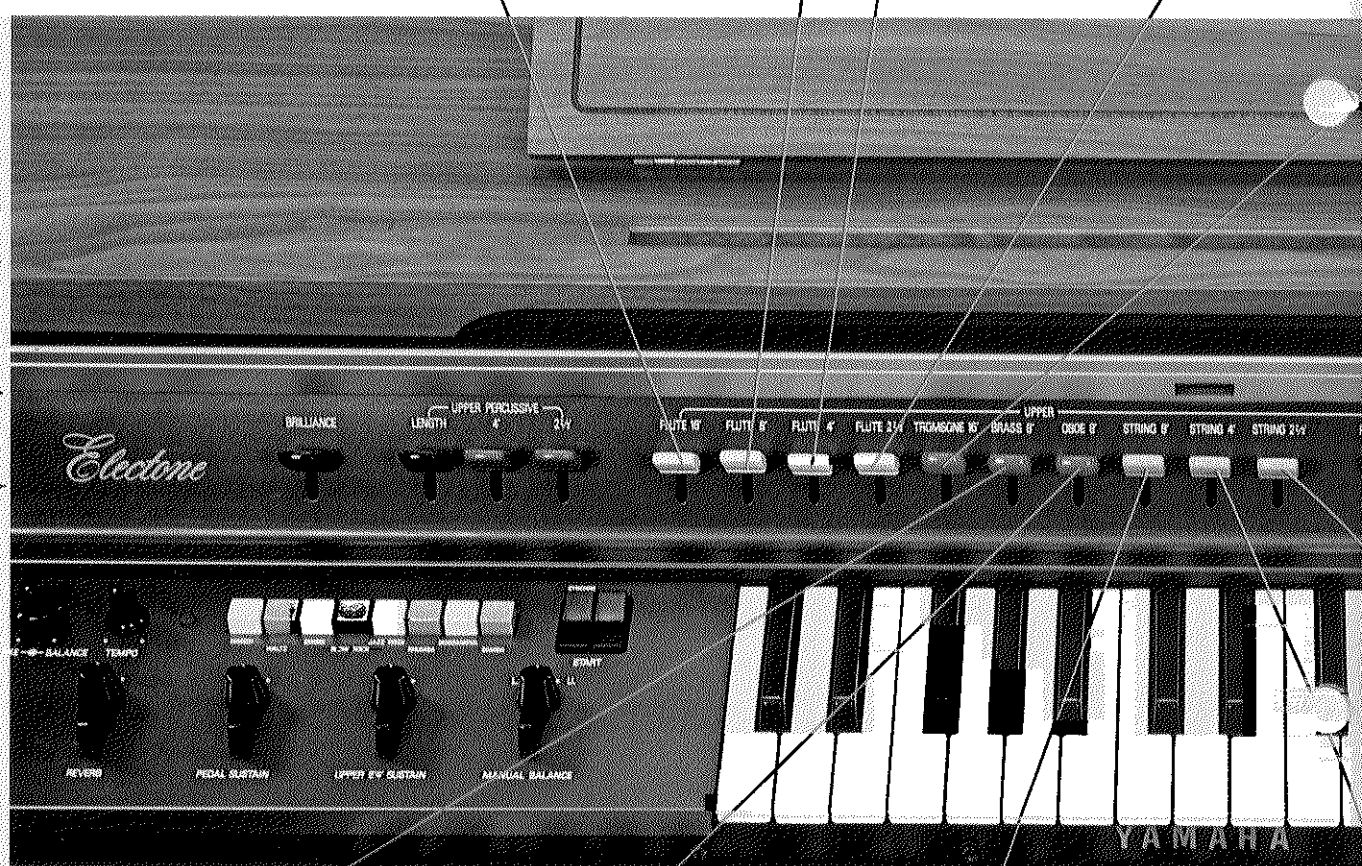
やわらかで澄んだ音ができます。他の音色とのハーモニーがきれいです。このレバーを手前に引くと1オクターブ下のフルートの音が加わります。

●フルート8'

フルートの音色です。澄んだ落ち着いた音がします。

●フルート4'

フルートのオクターブ上の音ができます。これを加えると音は華やかさを増します。この音を単独で用いれば音域を1オクターブ広げる使い方ができます。



●ブラス8'

金管楽器独特の複雑な波形をもった鋭い感じの音です。比較的あかるい感じがします。

●オーボエ8'

オーボエのようなダブルリードの楽器音で、やはり複雑な波形を持っています。これにより、演奏の味つけの効果が一段と増し、ストリング群などに加えると大変クリヤーな効果があらわれます。

●ストリング8'

弦楽器の音は更に複雑で豊かな音色になります。このトーンレバーの音も、そうした弦楽器の特徴をよくあらわしています。

トーンレバー
トーンレバーの持つすばらしい音の世界

下鍵盤のトーンレバー

●フルート2 $\frac{2}{3}$ '

オクターブと5度上の音がでます。これを加えると音の豊かさが一段と増し多彩な表現が楽しめます。

●トロンボーン16'

金管楽器のような音です。多少割れたような厚みのある金属的な音になります。

●ウッド8'

木管系の音で、フルートと同じような単純な音ですが、いくらかあかるい感じになります。

●ウッド4'

ウッドの音でオクターブ上の音です。特に低音部でメロディを弾くとき、この音を加えるとはっきりします。下鍵盤の音域をひろげるのにも使えます。

●ホルン8'

クセのない豊かなホルンの音色が得られます。

●チェロ8'

やわらかい自然なチェロのような音色です

●チェロ4'

チェロの音で、オクターブ上の音です。

ペダル鍵盤のトーンレバー

●バス8'

バスのオクターブ上の音です。これを加えるとペダル鍵盤の音は音程が一層聴きとりやすくなり、ペダル鍵盤でメロディを演奏することも可能です。

●バス16'

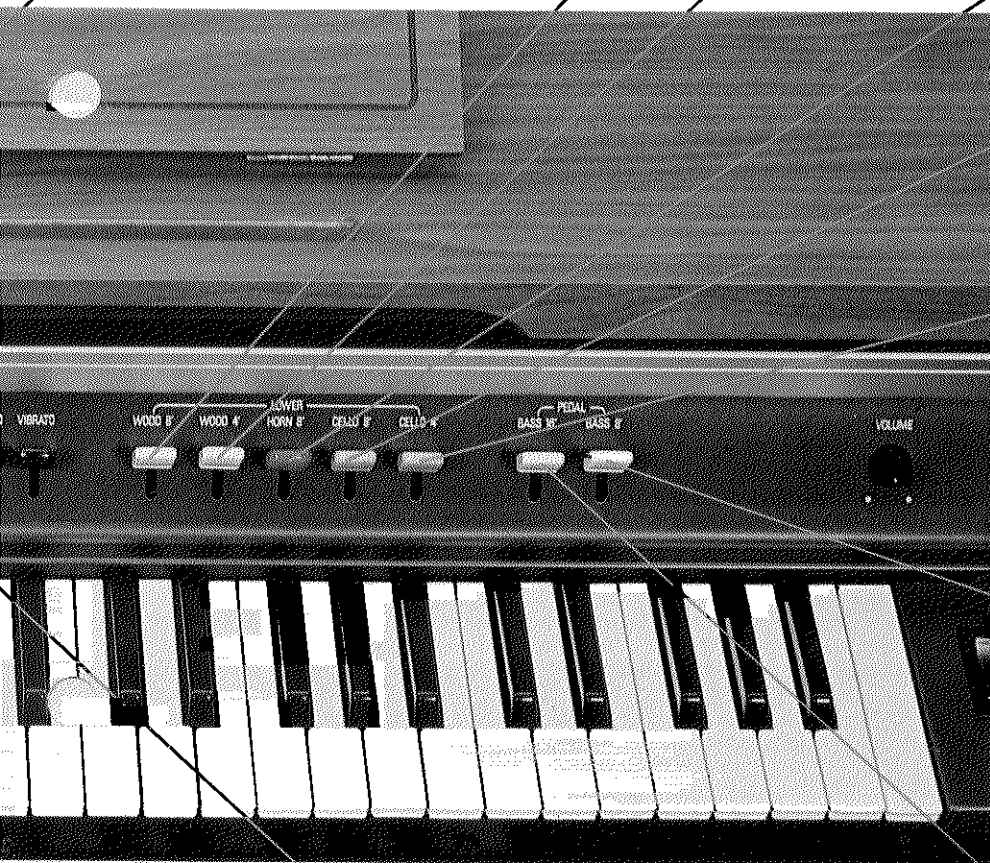
エレクトーンの最低音部を受け持ちます。

●ストリング4'

ストリングのオクターブ上の音が出ます。これを加えると一層華やかなサウンドが生まれ、また単独で用いれば、音域を1オクターブ広げることができます。

●ストリング2 $\frac{2}{3}$ '

ストリングの音で、オクターブ5度上の音が出ます。



オートリズムのすばらしい効果。

オートリズム

オートリズム各部の使い方

リズムセレクト

8つのリズムがあります。お好きなリズムのボタンを押してください。2つ以上のリズムを同時に鳴らす場合は、ボタンを必要な数(3個くらいが限度)だけ押してください。この場合、指を同時に離すようにします。

リズムのチェンジは、次のリズムのボタンを押すことで前のリズムは自動的にキャンセルされます。

各リズム間のテンポ(4分音符を基準)

は一致していますから、曲の途中から違ったリズムで演奏することも、より曲の表現を多彩にします。



スタートスイッチ

あらかじめ、リズムを2小節か

4小節鳴らしてから曲をスタートする場合には、スタートスイッチを使います。スイッチをONにすると、リズムが第1拍目からスタートします。

スイッチをOFFにすれば、リズムは止まります。

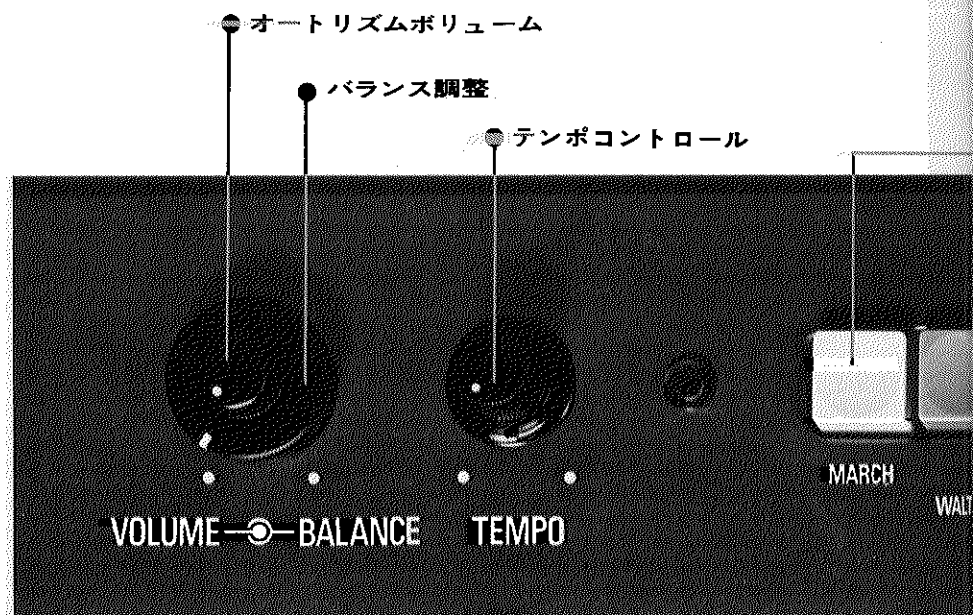
シンクロスタートスイッチ

曲とリズムを同時にスタートさせたい場合は、シンクロスタートスイッチを使います。スイッチをONにしておくと、下鍵盤またはペダル鍵盤と連動して、鍵盤を軽くタッチしただけで同時にリズムが第1拍目からスタートします。

この場合、上鍵盤は連動していませんから、上鍵盤だけでイントロダクション(前奏)を弾いておいて、曲の頭からリズムと同時にスタートするということができます。

ストップは、シンクロスタートスイッチをOFFにしてください。

なお、スタートスイッチとシンクロスタートスイッチはどちらかに限定してお使いください。スタートスイッチで始めた時は同じスタートスイッチで止め、シンクロ



スタートスイッチで始めた時はそのスイッチで止めるような習慣をつけてください。(ただしフットスイッチをお使いになる場合はこの限りではありません。)

フットスイッチ

スタートスイッチ又はシンクロスタートスイッチで曲を弾き始め曲の途中で短いブレイク(リズムをいったん止めること)をする場合、または最後にリズムと曲を同時にストップさせたい場合にフットスイッチを使います。

フットスイッチは、エクスプレッションペダルの左側の奥についている長方形のゴムを右足のつま先で左側に押せばかかります。再びスタートするときは、もう一度押し直します。

ただし、曲の最後にフットスイッチを使ってリズムを止めた場合は、スタートの時に使ったスイッチはONの状態にある筈ですから必ず一旦OFFの状態に戻しておくように心掛けてください。

テンポコントロール

オートリズムのテンポを自由にコントロールすることができます。

シンクロスタートスイッチを使う場合は、スイッチをONにしておくと音を出さない状態で、テンポインジケータランプによりテンポを目で確認することができます。4分音符の単位で点滅しますが、スタートすると各小節の頭で点滅するようになってきます。

オートリズムボリューム

オートリズムの音量と他のマニュアル鍵盤のバランスをとります。適度の音量を工夫してみてください。一度オートリズムボリュームでセットされた音量は、エクスプレッションペダルによってマニュアル鍵盤と同じように変化します。

バランス調整

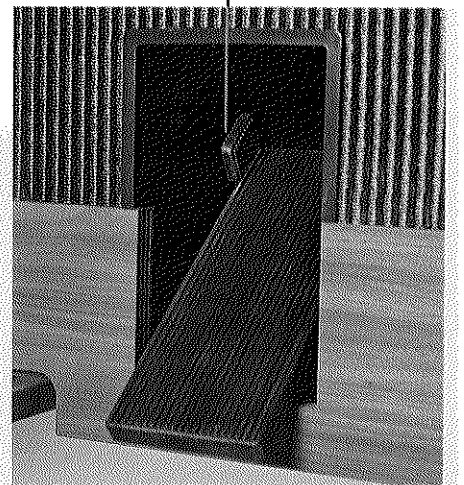
バランス調整は、バラドラムなどの低い音とシンバルなどの高い音との音量のバランスを、使う人の好みに調整していただくためと同じリズムでも曲によってそれぞれ違った感じで使っていただくためにあります。

ツマミを右にまわすとバスドラムなどの低い音が弱くなり、シンバル系統の高い音が強くなります。左にまわすとバスドラム、ポンゴ

コンガなどの太鼓の音が強くなりシンバル系統の音量が下がります。一般的には、ツマミを右にまわした方が軽快な感じになります。

個々のリズムのバランスのとり方については、後述の「演奏はこうして」の項をご参照ください。

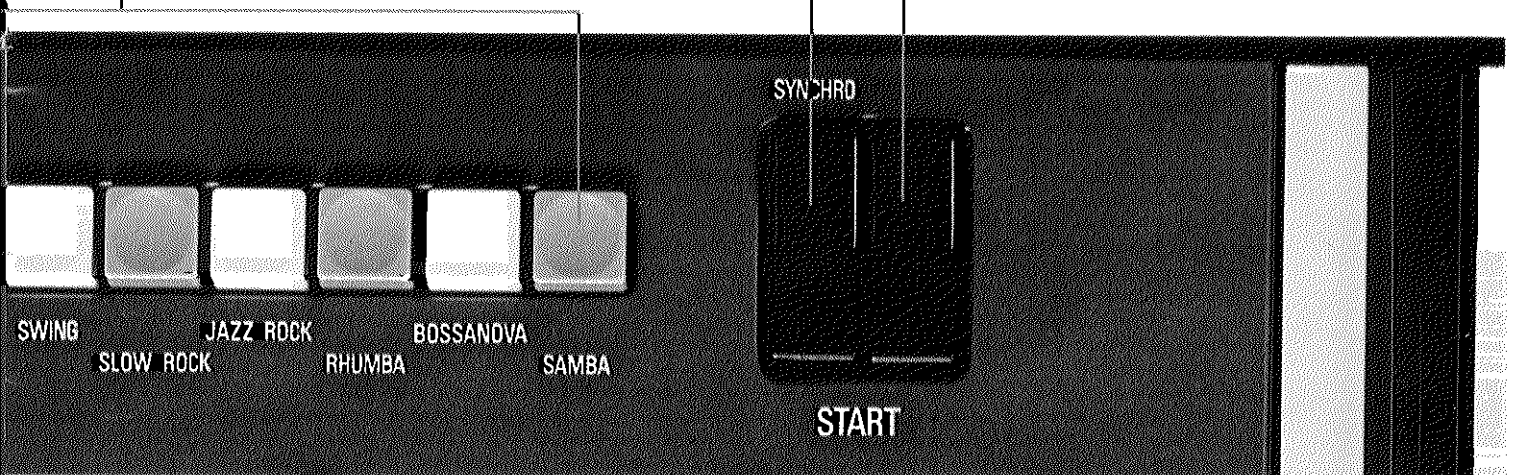
● フットスイッチ



● オートリズムセレクター

● シンクロスタートスイッチ

● スタートスイッチ



オートリズムの演奏はこうして

マーチ

2拍子のリズムです。マーチ・ポルカにはもちろん、4拍子の曲でも「聖者の行進」などのオルタネーティング・ベースを使う場合には最適です。2拍目のスネアドラムの音が気になるようでしたら、バランスつまみを右にまわすと軽快な感じになります。

ワルツ

3/4拍子です。左手の伴奏と同じパターンになりますから、リズムが伴奏とずれないように注意しましょう。テンポを速く、軽い感じで弾くときは、バランスを右にまわして好みのバランスを作ってください。

スイング

4/4拍子系統の曲には、テンポの速い遅いを問わず使うことができます。これにマーチを混ぜますと、バスドラムが4分音符で1

拍ずつ鳴りますから、曲の途中から盛り上げるために使うと効果があります。

スローロック

いわゆる「ロック・バラード」といわれるリズムです。イタリアのカンツォーネとか、日本のポピュラーソングなどにこのリズムが多く使われています。ワルツのリズムを混ぜると、アクセントができていっそう華やかになります。

ジャズロック

ジャズロックの基本パターンです。バスドラムの音量が邪魔になるようでしたら、バランス調整をしてください。スイングやマーチを混ぜると、ジャズロックのバリエーションとして効果的に利用できます。またルンバ、ボサノバ、サンバを混ぜるとそれぞれチャチャ・マンボに似たリズムが出来、ワルツを混ぜるとアメリカッチに似たリズムができて「蜜の味」などの曲が生きてきます。ただし、ワルツを混ぜた場合はテンポが少し速くなりますから注意してください。

ボサノバ

ボサノバの場合もバランスの調節で、ボサロック的な感じと、タイコの音を絞ったクールな感じとを使い分けてみましょう。また、サンバやジャズロックなどラテン系のリズムを混ぜた感じも試してみてください。

ルンバ

ラテンリズムで一番ポピュラーなルンバのリズムです。バランスを右に一杯まわすと、シンバルの音がビギンのリズムを刻みます。左に一杯まわすとボンゴなどの音が大きくなって、よりルンバらしい感じが出ます。サンバ、ボサノバ、ジャズロックなどと混ぜてもおもしろい味ができます。

サンバ

サンバはボサノバのもとになったリズムです。ですから、ボサノバの曲をスローのサンバで弾いてみるとまた違ったフィーリングになります。本来のサンバのリズムは速いテンポで演奏する機会が多いので、テンポをじっくり確認して楽しく、おおらかに弾きましょう。



- CY2 ——— シンバル
- CY1 ——— シンバル
- SDH) ——— スネア
- SDN) ——— ドラム
- HC ——— ハイコンガ
- HB ——— ハイボンゴ
- LC ——— ローコンガ
- BD ——— バスドラム

- 同じ位置に記譜してありますので、各々のリズムパターンを知りたい時には左の打楽器略号を横に追ってください。
- 記譜の都合上、BD（バスドラム）のみ休止符を最少限度使用しました。

MARCH $\frac{2}{4}$ CY2
SDH
BD

WALTZ $\frac{3}{4}$ CY2
CY1
BD

SWING $\frac{4}{4}$ CY2
CY1
SDH
BD

SLOW ROCK $\frac{4}{4}$ CY2
SDH
BD

JAZZ ROCK $\frac{4}{4}$ CY2
CY1
SDH
BD

BOSSA NOVA $\frac{4}{4}$ CY2
CY1
HB
BD

RHUMBA $\frac{4}{4}$ CY2
CY1
HC
HB
LC

SANBA $\frac{4}{4}$ CY2
CY1
HC
HB
LC
BD

演奏の表現力がグンと増す装置のかずかず。

プリセットトーンほか

アッパープリセット

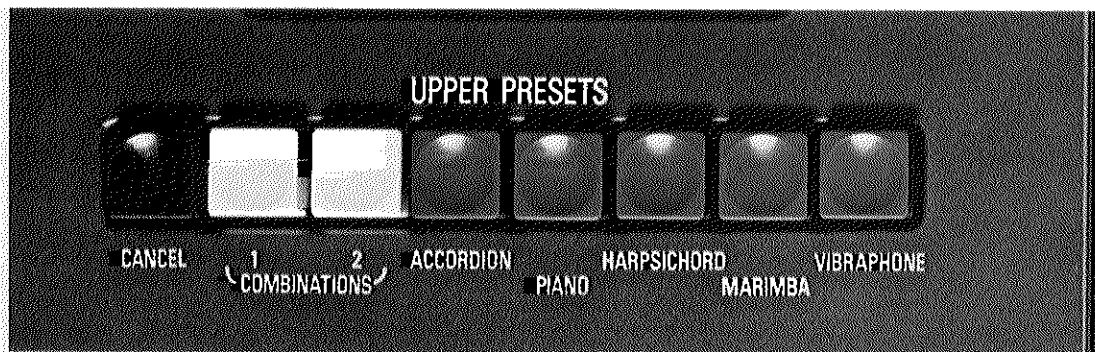
プリセットトーン

下鍵盤左側の拍子木の一番手前にある黒と緑と白の8つのボタンが5種類のインストゥルメントトーンと2つのコンビネーションサウンドが楽しめるアッパープリセットです。

これは、そのボタンを押すと上鍵盤が、ボタン下に表示されている楽器音に瞬間に切り変わります。また、これは上鍵盤の他のトーンレバーより優先されますから演奏

中でも素早くサウンドを変えたり、また元のレジストレーションに戻したりすることができ、演奏の表現力が一段と増してきます。

このボタンの機構はオートリズムセクターと同様、一つのボタンを押すと同時に自動的に他のボタンはキャンセルされます。元の音色（レジストレーション）に戻りたいときは、一番左端の黒いキャンセルボタンを押してください。



ピアノ

フルート系の音色で作られたピアノトーンです。あらかじめ適当な長さのサステインも含まれています。

ハーブシコード

ハーブシコードの音です。ハーブシコードは左手の伴奏も上鍵盤で弾くと、更に感じがでてきます。これもサステインが同時にプリセットされています。

マリンバ

押えた鍵盤に1オクターブ上の音が交互に発信され、マリンバのトレモロの感じを出しています。

これは、和音などで押えるよりもむしろ単音でメロディーだけをあっさり弾くような使い方が効果的です。

ビブラホン

ビブラホンの特徴ある音が、揺れながら消えてゆく感じがうまく生かされています。これもあっさりメロディを弾くだけで充分効果が出せます。

アコーディオン

アコーディオンの独特な音色と音の立上り（鍵盤を押してから音が出るまでの時間が遅くしてあります。）の感じがよく出されています。粋なシャンソンでも奏でてみてもいいでしょう。

コンビネーション

これは、ある決った楽器音ではなく、よく使われる代表的なサウンドをプリセットしたものです。この場合は上鍵盤、下鍵盤、足鍵盤とも一定の音色にセットされていますから更に便利です。

コンビネーション 1

フルート系の音色を中心にまとめられています。同時に音の立上りを鋭くするためのパーカッシブトーンが入っていますから、どちらかというとなかなかジャズ的な色彩の濃いサウンドになっています。

コンビネーション 2

フルート系にストリングを混ぜたオーソドックスなサウンドです。フルオルガンのような荘重な響きを得られます。

エフェクトレバー

ビブラート

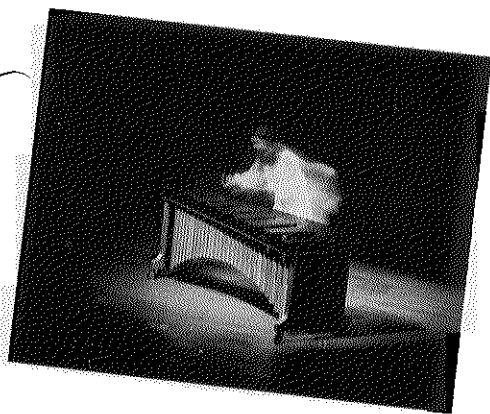
このレバーを入れると音が生き生きとうるおいを持ってきます。レバーの深さの程度によっていろいろな感じを作り出します。

ペダルサステイン

ペダルサステインをかけることにより、コントラバスのピチカート奏法の感じを出すことができます。

リピートスピード

リピートを入れると上鍵盤の音が歯切れのよい断続音になります。レバーの位置により、かかり具合が調節できます。



リバーブ

下鍵盤左側のレバーのうちの左側の2段になっている上の白いこのレバーを入れると大ホールで演奏しているような残響が得られます。

このレバーを左端にセットするとOFFになり、右にまわすにつれて残響が長くなります。

アッパーサステイン

エレクトーンでは普通キーを押した瞬間に音が出て、離れた瞬間にブツリと切れてしまいます。ところが既存の楽器、特にピアノではダンパーペダルを踏んでいればキーを離れた後でも音が自然に減衰していきます。こうした効果を出すのがアッパーサステインです。

下鍵盤左側のレバーの左側の下にある黒いレバーで、サステインの減衰の長さを調節します。

一番左端にセットすると減衰時間は0で、従ってサステインはか

かりません。だんだん右に廻すにつれて減衰時間は長くなってきます。演奏中サステインをかけたりかけなかったりする場合はニーレバーでコントロールすることができます。右膝で外側(右側)に押しとON、戻すとOFFになります。またニーレバーを倒しておけばサステインはかかったままになります。

マニュアルバランス

下鍵盤の左側にあるレバーのうち右側のレバーです。

これは上鍵盤と下鍵盤の音のバランスをとるためのもので、普通は中央位置にセットしておきます。

しかし、上鍵盤のメロディをもっと引きたせたいときはこれを右にまわし、逆に下鍵盤の音が弱すぎるときは左にまわします。

プリリアンス

これは音色全体をきらびやかな感じにしたりやわらかな感じにする時に使います。このレバーを下げるに従ってきらびやかなあかるい感じが加わります。

エフェクトニーレバー

アッパー8'、4'サステイン効果を、演奏中に入れ切れすることと、シンギングビブラートの効果をつける為に使われます。

その他

トータルボリューム

トータルボリュームは深夜など人の迷惑にならないように、自由に音量調整ができます。

またエクスプレッションペダルとの併用により曲の途中や終りでppp等の最弱音の効果を出したいときこのトータルボリュームでコントロールできます。

パワースイッチ

上鍵盤の右側にあるスイッチでネオンランプが内蔵しており、電源が入るとランプがつくようになっています。

ボイスタブレット

トレモロタブレットまたはコーラスタブレットを押した状態にしておいて、メイン、トレモロに切換えてみてください。メインの側ではトレモロはかかりません。トレモロにして初めて効果がかかります。

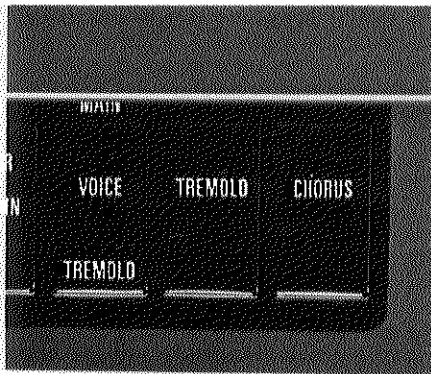
トレモロタブレット

ボイスタブレットをトレモロの状態にしておいて、このタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーが回転し豊かなトレモロ効果がかかった演奏が楽しめます。この効果でのスピードは、ほぼ6.8Hzです。

コーラスタブレット

ボイスタブレットをトレモロの状態にして、このタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーがゆっくりと回転して荘厳なコーラス効果のかかった演奏となります。とくにコーラスタブレットは宗教曲とかスローな演奏に効果的です。この効果での回転スピードは1Hzです。

ただしトレモロタブレットとコーラスタブレットが両方入った状態では、トレモロタブレットの効果が優先します。



トレモロスピード

トレモロ効果を掛けた時に得られる音が回転するような感じを、速くしたり、ゆっくりしたり自由にコントロールできるものです。

素晴らしい魅力が加わりました。(C-50Tのみ)
 弾く・聴く・エレクトーンの多彩な楽しみにまたひとつ

エレクトーンC-50Tに内蔵されているカセットデッキは、特にヤマハがエレクトーン組み込み用として開発したものです。ピッチコントロール、フレーズストップなど、今までのカセットテープデッキに無い魅力を備えています。

このカセットを有効に活用することによって自宅での独習、マイナス・ワン・テープとの共演、自



分やお友達の演奏、レコーディング、そして鑑賞など…楽しみ方はさまざまです。くふう次第で、エレクトーンの世界を2倍にも3倍にも広げることができるでしょう。

もちろん、お楽しみ用テープや、学習用テープもどっさり用意しました。

取り扱いを正しくするために、各部の名称と働きをおぼえてください。

1 **カセットホルダー**
カセットテープを装填する部分です。ふたを手でもちあげるとふたがあきます。

2 **カウンター及びリセットボタン (COUNTER)**

テープの走行にしたがって数字が増していきます。録音を開始するときにリセットボタンを押してカウンターの数字を[000]にしておき、録音内容別に数字をメモしておくのと再生のとき便利です。

3 **レベルメーター (LEVEL)**

録音入力レベル、及び再生出力レベルを表示します。

4 **録音・再生ボリューム (VOLUME)**

5 **ピッチコントロール (PITCH)**

テープ速度を速くしたり遅くしたりするボリュームで、上下におよそ $\frac{1}{2}$ 半音づつの範囲をコントロールできます。

6 **録音ボタン (RECORD)**
録音レベルをセットするとき、及び録音するときに押すボタンです。録音する場合は、このボタンとプレイ・ボタン(▶▶PLAY)を同時に押してください。

7 **巻き戻しボタン (◀◀REW)**

テープを右から左へ巻き戻しするボタンです。このボタンはオートストップがききません。解除するときはSTOPボタンを押します。

8 **早送りボタン (▶▶F-FWD)**

テープを左から右へ早送りするボタンです。テープの途中から演奏したいときに便利です。ボタンを押している間のみ作動し、はなすと停止します。

9 **プレイボタン (▶▶PLAY)**

再生、または録音する場合の正常送りボタンです。このボタンを押すと、テープは左から右へ定速で送られます。

10 **ストップボタン (■STOP)**

デッキのすべてのメカニズムが停止し、各操作ボタンを元の位置へ復元します。



11 **フレーズストップ・スイッチ (PHRASE STOP)**

このスイッチを左の位置ONにすると、教材用テープに入っている特定信号音によりテープは自動的に一時停止します。

12 **アドバンスボタン (ADVANCE)**

フレーズストップで一時停止したテープ走行をもとに戻してPLAY状態にするボタンです。

13 **マイク及びリモートジャック (MIC)**

付属のマイクروفオンを使用する時に、このジャックに差しこみます。この場合付属のマイクروفオンはリモートコントロール付ですのでもリモートジャックにも同時に差しこんで使用します。

14 **電源スイッチ**

電源スイッチはエレクトロンの電源スイッチと共通となっています。

取り扱い上のご注意

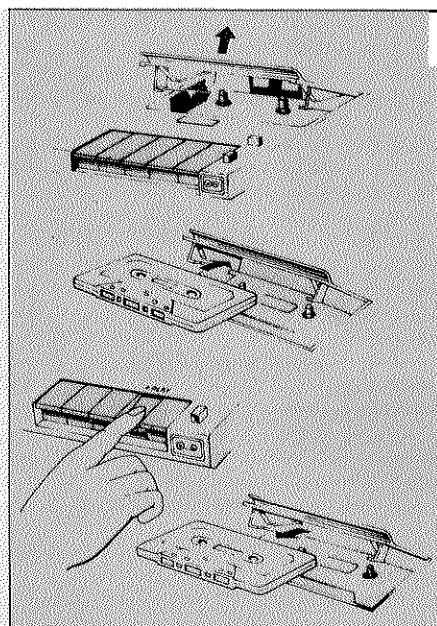
カセットテープデッキを長持ちさせるために、次のようなことはなさないでください。

- ①各操作ボタンを押したまま長時間放置すること。
 - フレーズストップされたまま
 - マイクリモートスイッチがOFFのまま
 - 巻き戻しボタン(◀◀)を押したまま
ご使用後は必ずストップボタンを押して、各ボタンを復帰してください。
 - ②プレイ中に早送りボタン(▶▶)や巻き戻しボタン(▶▶)に切り換えしないでください。必ずストップボタンを押してから各操作ボタンを押してください。
 - ③その他
 - カセットテープは必ずSTOPの状態を着脱してください。
 - デッキを使用しないとき(電源を入れていないとき、カセットをホルダーに入れないうち)に各操作ボタンを押さないでください。
 - カセットテープがセットされていないときは、録音ボタンを押せません。またミュージックテープの場合はカセットをセットしても録音ボタンを押せません。(無理に押し込まないでください)
 - カセットテープのケースが変形しているものや、精度の悪いカセットテープ、早送りのとき異音を発するカセットテープなどは使用しないでください。
 - このカセットに使用する標準テープはC-60タイプです。
- ※ご注意
クロームテープ等超高性能テープをご使用頂きますまでも、その特性を十分生かしきれませんので、ご注意ください。
また、C-120テープは、テープ自体が大変薄く出来ていますから、音楽などの反復練習用として適しておりません。

再生を始める前に

■再生をする場合は、つぎの手順で行なってください。

- ①カセットテープをホルダーにセットします。
- ②プレイボタン(▶PLAY)を押し、テープを走行させます。
- ③ボリュームをまわして、出力レベルをコントロールします。
- ④テープが右側へ全部巻きとられて片面の再生が終了しますと、オートストップ機構によりモーターがストップし、全メカニズムが停止します。続けて裏面の再生を行なうときはカセットホルダーのふたを開けてテープを取り出し、テープの裏面を上にしてホルダーにセットします。



■早送り、巻き戻し

テープの途中から再生したいときは、早送りボタン(▶▶F-FWD)を押してください。テープは右側へ高速で巻きとられます。この場合、それぞれの開始点がカウンターの数字で記録されていれば、再生したい箇所がカウンターによりすぐわかりますので、たいへん便利です。

ボタンをはなすとその瞬間に停止します。片面の再生が終了し、もう一回同じ面を再生するとき、

また同じ曲を何回もくり返したいときは、巻き戻しボタン(◀◀REW)を押してください。テープは左側へ高速で巻きとられます。巻き戻しを中止したり、テープエンドまでできましたらかならずSTOPボタンを押してください。

※ご注意

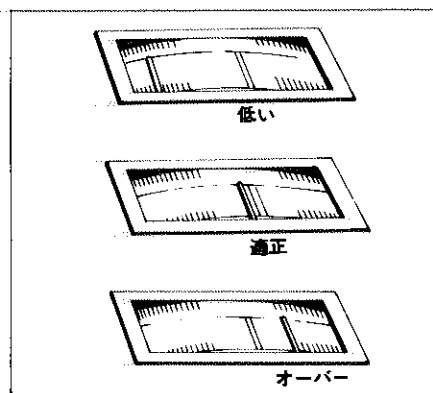
再生音のコントロールはカセットのボリュームつまみのみ働きます。エレクトーンのEXPペダルやトータルボリュームは関係しません。

録音を始める前に

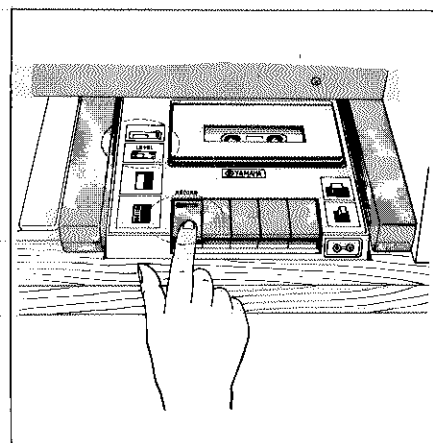
■録音をする場合は、つぎの手順で行なってください。

※録音にはライン録音とマイク録音の2種類があります。C50Tの場合エレクトーンの音はマイクを使わないでエレクトーンのアンプから直接ライン録音ができます。

- ①カセットテープをホルダーにセットします。



- ②録音ボタン(RECORD)を押して



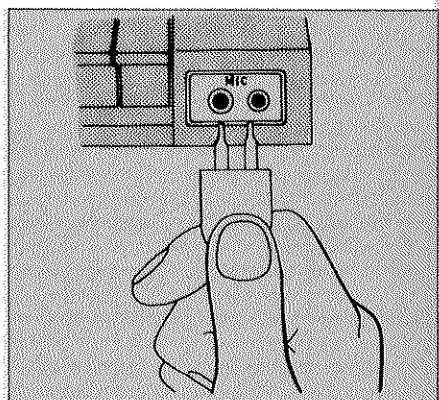
録音レベルの調整をします。実際にエレクトーンの音を出してみて最大音でレベルメーターの針が黒と赤の境(図のような位置)にくるくらいにボリュームで調整します。また録音の場合は、エレクトーンのエクスプレッションペダルとトータルボリュームもレベルに影響してきますから特にトータルボリュームはレベル調整の前にセットしてむやみに動かさないようにします。

※ご注意

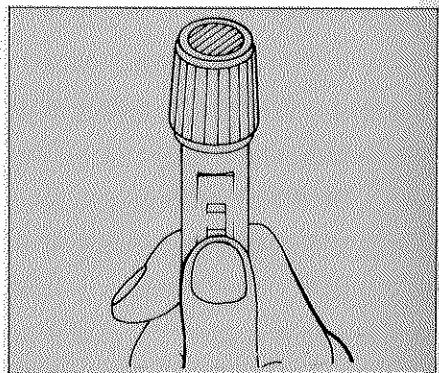
録音時にはピッチコントロールは働きませんのでご注意ください。

マイクを使って録音の場合

付属のマイクロフォンを接続してください。この場合自動的にエレクトーンの信号が切れてマイク



ロフォンの信号のみになります。その他の手順は同じですが、図のようにマイクのネックについているスイッチをOFFにしますとモ-



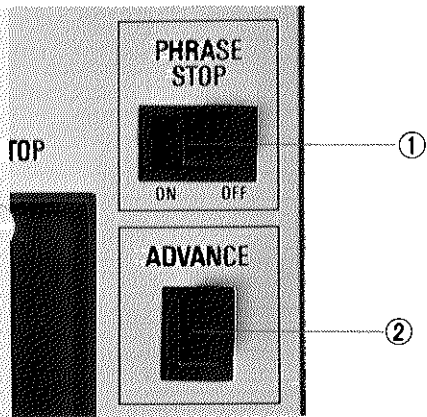
ーターのスイッチが切れ、又、ONにしますとモーターがまわりだし

ますので、マイクの手もとでコントロールできます。

※ご注意

マイクロフonsスイッチがOFFになっていてもモーター以外のメカニズムは働いていますので、長時間この状態で放置することはおやめください。

フレーズストップを上手に使うには



フレーズストップは、あらかじめテープに入れられた周波数の低い信号音(20Hz)を、機械が素早くキャッチして、テープが自動的に止まる機能です。従って、信号音の入っていない普通のカセットテープを使用しても止まりませんから注意しましょう。ヤマハのテープでは、フレーズストップの合図としてチャイム音が入っていますから、チャイムが鳴ったらテープは止まります。操作は、カセットの手前右側①にあるフレーズストップスイッチをONにします。従って、フレーズストップが不要なときはOFFにしておけばチャイムは鳴ってもテープは止まらずに進行することになります。

また、フレーズストップによって1度止ったテープを、再度スタートさせる場合には、フレーズストップスイッチの手前にあるアドバンスボタン②を押します。このストップの状態は、モーターが停止するだけでメカニズムは解除され

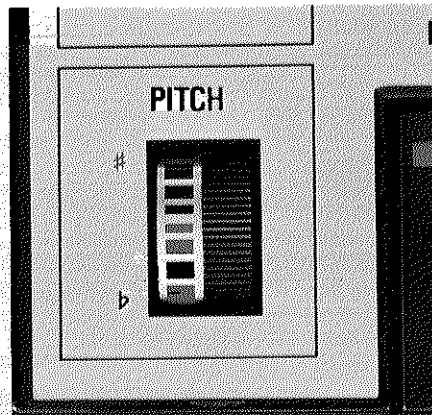
ていませんから、この状態で長時間放置することは避けてください。

フレーズストップの活用の仕方は、例えば最初はフレーズストップをOFFの状態ですべて流して中味のアウトラインをつかみ、2回目にフレーズストップをONにして納得のゆくまで反復練習や考える時間をとるというような、ONとOFFの使い分けをうまく利用することがポイントとなります。

ピッチコントロールを上手に使うには

ピッチコントロールはテープの回転速度を変えることによって音程を上下に変える働きをします。テープ速度はその時の電圧その他の状況によっても微妙に変化してくることもありますから、使うたびに調整することが肝要です。操作は指でピッチコントローラーを前後にスライドさせます。前方にスライドさせるとピッチが上り、手前にスライドさせると下ります。

ヤマハが出しているテープではこのピッチ調整をなるべく簡単にするために、各テープの最初の部分に基準音ドの音(C1)が入っています。このテープを使用した場合は次のような順序で合わせてください。



①まず実際にテープを入れて音を出しながらコントローラーをス

ライドさせる方向とピッチとの関係を確認してください。

②次にエレクトーンのスイッチを入れ、上鍵盤の中央のド(C1)を左手で押えて音を出してみてください。トーンレバーはフルート8'を3までおろし、ビブラート・トレモロなどはOFFにしておきます。

③各テープの最初の部分に、基準音が入っています。エレクトーンの鍵盤を左手で押えながら右手でプレイボタンを押して基準音を出してみましょう。

この際、両者の音量バランスに気をつけてください。

④両者にピッチのズレがある場合には、ビブラートのような波が聞こえてきます。その波が少なくなって0になり、全く1つの音のようになったときがピッチが合ったときです。両者が同時に鳴り出すと、どちらが高くどちらが低いかの見合けが瞬間につかめない場合があります。

あらかじめコントローラーをフラットの方向にいっぱいまで下げた状態で、エレクトーンの音と聞きくらべながら徐々にピッチを上げていくのも一つの方法です。

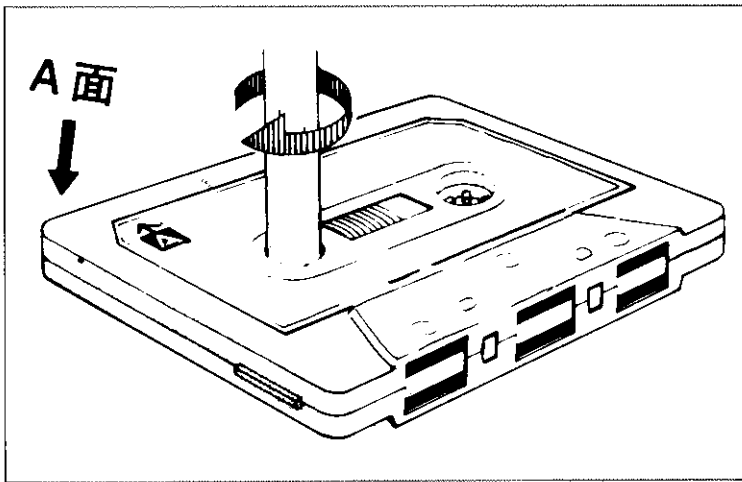
⑤テープの基準音は、20秒の長さで2回繰返していますが、馴れないうちはなかなか1回では合わないものです。その時はテープを戻して同じように繰返してください。

このピッチの合せ方についてはミュージックテープで実際に音を出していますから、よく聴いて早くコツをつかんでください。

また、自分でマイナス・ワンテープなどを作る場合には、テープの頭にあらかじめこのような基準音(ラの音とか・ドの音)を入れておくとあとでエレクト

ーン、その他の楽器と合わせる
ときに大変便利です。

カセットテープについて



①テープがたるんでいないかどうか見てください。たるんだまま使うと、からまったりして故障の原因となります。もしたるんでいたら、六角形の鉛筆をハブ穴にさし込んでクルクル回してたるみを巻き取ります。

②カセットにはA面とB面、又は1面と2面があります。A面を聞きたいとき、あるいはA面に録音したいときはAの文字の見えている面を上にしてカセットをテープデッキに入れます。

③録音・再生中にテープは左から右へ走行します。テープデッキにカセットを入れる前に左側のリールにテープが巻き取ってあることを確かめてください。もしも巻き取ってなければ、カセットを入れた後に巻き戻し/リワインボタン(◀◀REW)を押して巻き戻します。

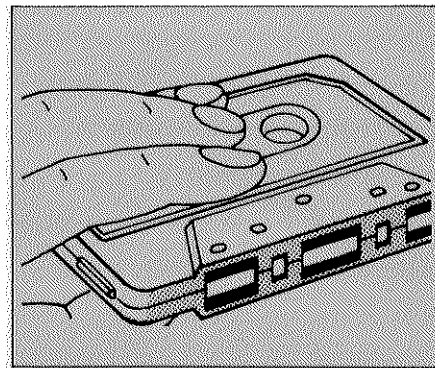
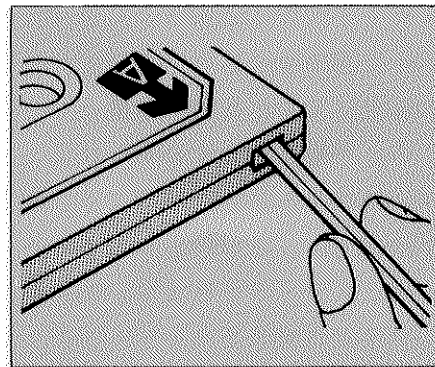
④テープデッキにカセットを入れるときは、テープの見える方の側を手前にして入れます。そのとき、このテープ面に手で直接さわらないようにご注意ください。指先についたホコリなどがテープに付いて雑音の原因

になることがあります。

⑤誤消去防止用のツメ

大切な録音をしてあるカセットに新しい録音をしてうっかり前のを消してしまったというようなミスを防ぐためのツメです。

例えば、A面の録音を消さないようにするにはツメをドライバーの先などで押し折ります。A面用のツメはAの文字の上



にあります。

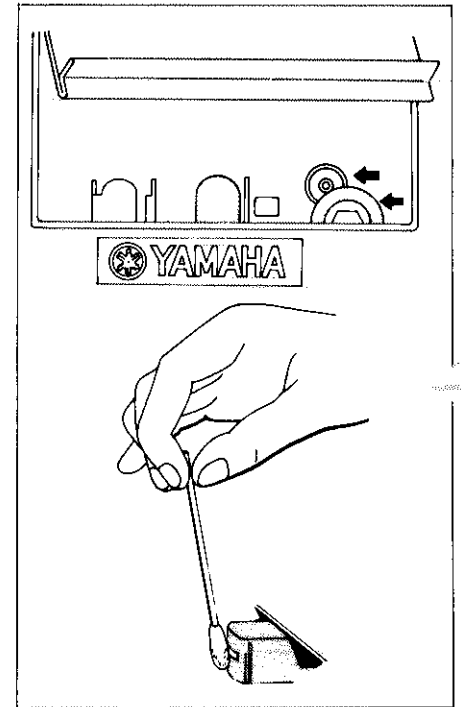
こうすると録音ボタンが押せないので、誤って消去してしまう心配がありません。

⑥ツメを折ったカセットを再び録音に使いたいときは、ツメを折った穴の上にセロハンテープなどを貼ってふさぎます。

お手入れ、故障について 簡単なお手入れのしかた

最良の状態ですべてのこのカセットテープデッキをお使い頂くために、定期的にお手入れを心がけてくださるようお願いいたします。

■ヘッド部の清掃



ヘッドやピンチローラなどテープと接触する面が汚れていると、雑音がでたり、音がふえたりします。特にピンチローラにゴミが付着していると、テープを巻き込んだり、オートストップの誤動作の原因になります。これらの部分はいつもきれいにしておきましょう。清掃するときは、カセットを入れずにプレイボタン(▶)を押しますとヘッド部がつき出てきます。付属のヘッドクリーニング棒(綿棒)またはガーゼなどにアルコールを含ませ、テープのあたる面をていねいにふいてください。

※ご注意

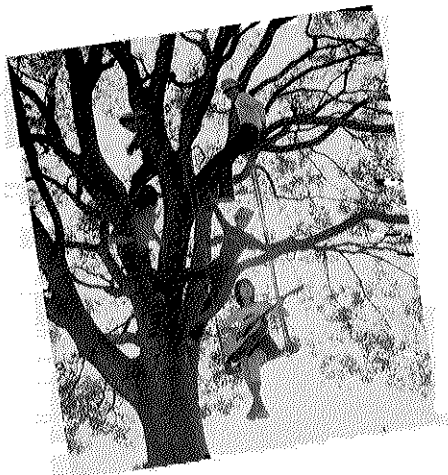
- ①ヘッドの清掃時は電源をOFFにして行ってください。
- ②ヘッドには絶対にキズをつけないでください。またヘッドに金属製のものをふれないでください。

■ ケースが汚れたら

中性洗剤溶液にひたした柔らかい布でふいてください。シンナーやベンゼンなどは表面の仕上げをいためますのでお使いにならないでください。

故障かな……………？ とお考えになる前に

カセットテープデッキの調子が悪いとすぐに故障と考えがちですが、“故障でない故障”が意外に多いものです。販売店へお持ちになる前に次のような点をお調べください。



① テープが走行しない

- 電源コードがはずれていませんか。
- 電源コードスイッチがOFFになっていませんか。
- マイクのリモートスイッチが、OFFになっていませんか。(付属マイクを接続している場合)
- フレーズストップが働いていませんか。(アドバンススイッチを押してみてください)

② 録音ボタンが押せない

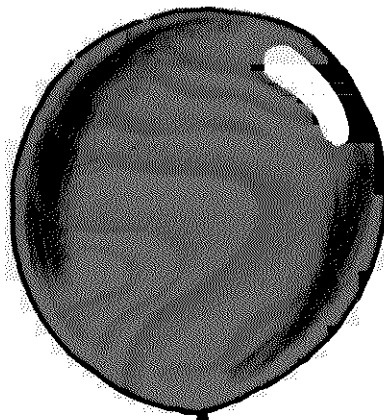
(無理に押し込めないでください)

- ツメを折ったカセットテープを入れていませんか。
- カセットテープがはいっていない場合も録音ボタンは押せません。

③ 音がふるえる、かすれるなど

- ヘッドが汚れていませんか。(手入れのしかたの項参照)
- カセットテープ不良の場合もありますのでテープを交換してみ

BALLOON



てください。

④ 再生時にブーンという大きな音がでる

- ピンプラグコードがはずれかかっていますか。

⑤ 再生時にサーノイズが多い

- 古いテープを使っていますか。
- クロムテープをお使いになるとサーノイズが耳ざわりになります。

⑥ フレーズストップが働かない

- フレーズストップスイッチがOFFになっていませんか。
- ストップ信号音(20ヘルツ)がはいっていないテープの場合は働きません。

⑦ 早送りボタン(▶▶F-FWD)

がロックできない

- ボタンを押している間、テープを早送りし、はなすと停止するノンロック機構ですからこれで良いわけです。

⑧ 再生時エレクトーンとピンチ

- ピッチ調整つまみでエレクトーンとピッチをあわせてありますか。

⑨ テープエンドでオートストップ

が働かない

- ピッチローラーが汚れたりスリップしていませんか。(手入れのしかたの項参照)
- カセットテープ不良の場合もありますのでテープを交換してみてください。

⑩ 巻き戻しボタン(◀◀RWD)

でオートストップがきかない

- オートストップが働くボタンはプレイボタン(▶PLAY)と録音ボタンですから、巻き戻しボタンでは働きません。巻き戻しが終わりましたら、必ずストップボタンを押してください。

カセットテープ レッスン用お楽しみ用テープがこんなに揃っています。

初心者向独習用テープから鑑賞用テープまで巾広く揃っています。

☆独習システムテープ

エレクトーンを始めようとする人、自由に練習してみたい人に役立ちます。

- エレクトーン/アイ・テープVo. 1.1
グレード12級までの人向き(テープ2本、使用説明書、エレクトーンシート14点、鍵盤ボード付)
- エレクトーン/マイ・テープVo1.2
グレード12級~10級の人向(テープ2本、使用説明書、エレクトーンシート16点、鍵盤ボード付)
- 幼児のエレクトーン(インファントエレクトーン) 子供向独習テープ(テープ2本、曲をわかりやすくした絵本付)

☆教室での副教材・ホームワーク用テープ

教室のレッススが一段と楽しくなり、レッスン用に最適です。

- メイトミュージックテープVo1.1
グレード13級~10級向き(全26曲化粧箱入り・リーフレット付)
- メイトミュージックテープVo1.2
グレード9級~8級向き(全26曲化粧箱入り・リーフレット付)
- メイトミュージックテープVo1.3
グレード7級向き(化粧箱入り・リーフレット付き)
- メイトミュージックテープVo1.4
グレード6級向き(化粧箱入り・リーフレット付き)
- メイトミュージックテープVo1.5
グレード5級向き(化粧箱入り・リーフレット付き)
- 子供メイトミュージックテープVo16
グレード9級~7級向き(化粧箱入り・リーフレット付き)
- 子供メイトミュージックテープVo17
グレード6級~5級向き(全20曲化粧箱入り・リーフレット付き)



- スクールミュージックテープVo1.1
グレード13級~12級向き(化粧箱入り・リーフレット付き)
 - スクールミュージックテープVo1.2
グレード11級~10級向き(化粧箱入り・リーフレット付き)
- レッツプレイテープ・メイトフォリオテープ……オーケストラ演奏によるB.G.M方式により楽しみながら曲を習得できます。
- レッツプレイテープ
レスナー向き(プラスチックケース入り・リーフレット付き)
 - メイトフォリオテープVo1.1
グレード13級~12級向き(プラスチックケース入り・リーフレット付き)
 - メイトフォリオテープVo1.2
グレード11級~10級向き(プラスチックケース入り・リーフレット付き)
- 他にエレクトーンをより楽しみたい人

のために、レパートリーテープがあります。

☆家庭でのお楽しみテープ

エレクトーンを楽しみたい人が家庭で、好きなレパートリーを広げることができます。

- ファン&ジョイシリーズ
世界歌謡祭、ビートルズ
バカラック&フランシス・レイ

☆指導者・上級者向けテープ

高度なテクニックと応用力を身につけるためのテープです。

- 斎藤英美のエレクトーン編曲法
沖浩一のリズムの世界
川村江一のエレクトーン料理法

詳しくはお近くのヤマハ楽器店、エレクトーンセンターへお問合せください。
発売元 財団法人ヤマハ音楽振興会

トラブルの発生にはお買上楽器店でサービスを。

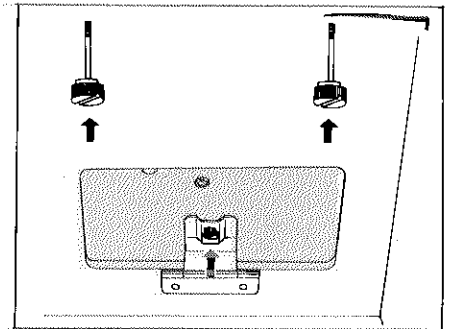
サービスについて



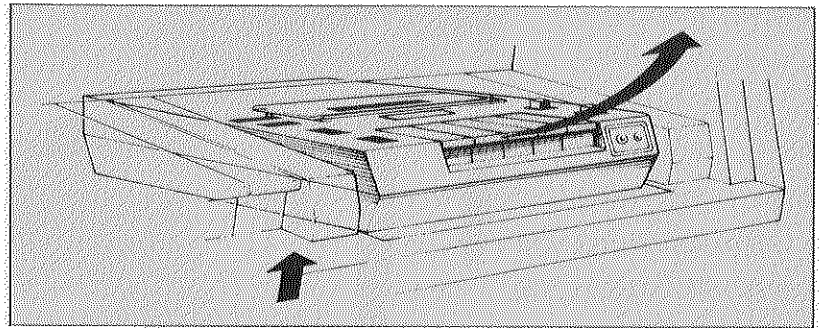
このカセットテープデッキは厳重な検査を経て出荷されておりますが、万一、不調な点がございましたら、“故障かな？”とお考えになる前に、の各項目をお調べいただき、それでも、なおトラブルが発生するときにはカセットデッキを取りはずしてお買上楽器店にご持参のうえ、サービスをお申し付けください。

カセットデッキの取りはずし方。

- ①まず手またはコインにて右側棚板下の取付け用固定ネジ3本をゆるめてください。



- ②固定用取付けネジをはずしますとカセット後方が下に少し下がりますから、片手を棚板下からカセット裏側にそえ、もう一方の手でカセット前面をもち上げながら手前に引き出します。



- ③カセット後方にエレクトーンとの接続コード（ピンプラグコードと電源コード）がありますのでこれらを取りはずします。

※ご注意

3本の固定ネジは途中までゆるめればカセットと離れ、エレクトーン本体に残りますので全部ゆるめて取り外す必要はありません。

演奏方法

さあ、演奏に入りましたよ。

演奏の姿勢

すべての楽器の演奏は基本の姿勢が大切です。最初によくマスターして、すばらしい演奏をお楽しみください。

1：エレクトーンを中心に座ります。椅子の前半分位の位置で楽な姿勢をとります。からだの重心は少し右側により、左足が楽に動かせるようにしてください。

2：主に右手は上鍵盤（メロディパート）、左手は下鍵盤（伴奏パート）、左足はペダル鍵盤（ベースパート）を演奏します。それぞれ鍵盤全音域にとどくように確かめてください。

4：右足はエクスプレッションペダルにのせます。足首の力をぬき足底全面がペダルに密着するように、そしていっぱい踏み込んだときと、上げたときとのその間の動作がすべて楽に動かなければいけません。

5：正しい姿勢がとれたら、右手で鍵盤を押さえながら、トーンレバーとエフェクトレバーを入れましょう。

6：次に、リバーブレバーやマニュアルバランスをあわせませす。

7：リバーブをつけたいときは、右ヒザでニーレバーを外側へ押しつけてください。



3：左足は力を入れずに下脚が左右に楽に動き、足首は力をぬき、つま先が黒鍵の手前を軽く押すように演奏します。

電源の入れ方

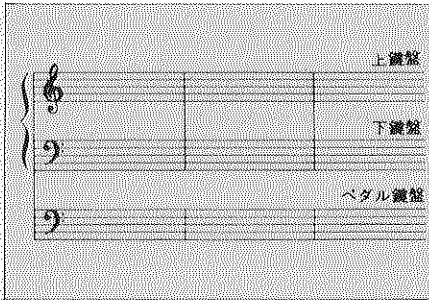
1：エレクトーンの背面にある電源コードをコンセントに接続します。

2：上鍵盤の右端にある電源スイッチを押してください。

3：パイロットランプが点燈して演奏できます。

楽譜について

エレクトーンの楽譜は3段に書かれています。この場合、特に指



定のないかぎり、いちばん上段が上鍵盤、2段目が下鍵盤、いちばん下がペダル鍵盤のための譜になっていて、それぞれ右手、左手、左足で弾きます。

ふつう、上鍵盤は高音部記号、下鍵盤とペダル鍵盤は低音部記号で書きます。

練習曲の音符には、ピアノと同様に運指の為の五指の番号がついています。大体はピアノの譜に準じて読めばよいのですが、エレクトーンの譜には特に音色の変化を指定する記号があることにご注意ください。

マニュアルキー(手鍵盤)の弾き方

美しくエレクトーンを弾くためには、正しい指使いをしなければなりません。

ふつうの手の形は、一度にぎった手を軽くひろげ、指を立てた状態にします。この形は指を早く動かすためにも必要で、あらゆる有鍵盤楽器に共通の模範的な形です。

エレクトーンはピアノと違い指を離れた瞬間に音が切れてしまいます。ですからレガートを弾くときなどは、次に弾く音の上に指を用意する必要があります。

- 1：原則として2度は隣の指で
- 2：5度以内は5指を有効に
- 3：5度以上の順次進行は音階の指使いで
- 4：指の拡大はなるべ1-2、1-4・1-5の指の間で
- 5：黒鍵はなるべく長い指で(2・3・4指)

もちろん曲により例外もたくさんありますが、一口に言えば合理的な指使いが必要なわけです。

ペダル鍵盤の奏法

- 1：座る位置をいつも同じにしましょう。1オクターブ以上キーがある時に、からだの中心の音よりも4度下の音が(すなわちfに座るとC)左足の真下の音となります。しかし、からだの大小により多少異なりますが、足鍵盤がオクターブですのでCかdの所に、からだの中心を持ってきますと、左足はGかAの所にくるはずはです。
- 2：ひざから下は、ひざを中心に時計の振子のようにらくに動くのが上手な弾き方です。
- 3：演奏は足首でします。ひざを上下すると足が疲れやすく、また速いテンポの曲の演奏が困難になります。踏む位置は白鍵の真中より少し奥を踏み、足の指のつけ根が白鍵の真中になるようにします。
- 4：演奏中に足鍵盤を見ますと姿勢がくずれ、ひざを開いてのぞき込むと足に不自然な力が入ります。いずれもよくない弾き方です。
- 5：練習を始める前の、ペダル鍵盤だけのリズム練習、音階練習はペダル鍵盤の上達に大変有効です。



ペダル奏法のご注意

- 1: 座る位置が前過ぎ、ひざが前に出たりその逆になったりしがちです。
- 2: Gより上の音(A.B.C)を弾く時にかかどが内側に入り、ひざが外側を向くことがよくあります。
- 3: 下のC(c)を弾く時に、ひざが内側を向き下脚に不自然な力が入りやすいものです。
- 4: 短く切る時(スタッカート)は必要以上にツマ先が上がらないようにしてください。
- 5: ひざが上下するのは足首に力が入っているためです。もっと楽な気持ちで弾きましょう。
- 6: たたきつけるような演奏となる(足全体に力が入る)のも、まだ足の動かし方が不自然だからです。
- 7: 恐る恐る演奏すると、かえって音程がとりにくくなります。
- 8: 練習時にはペダル鍵盤の音量を少し大きめにしましょう。



タッチについて

いままでピアノを弾いていた人が、エレクトーンを弾いてみて、一番とまどうのはタッチの違いでしょう。

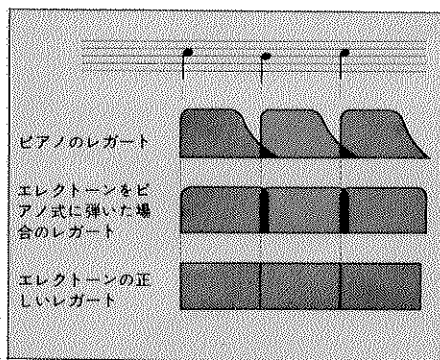
特に、レガートとスタッカートは大変違ってきますからご注意ください。

レガート

ピアノの場合、キーをたたくとそのキーが下がり切ったあたりでハンマーが弦をたたきます。

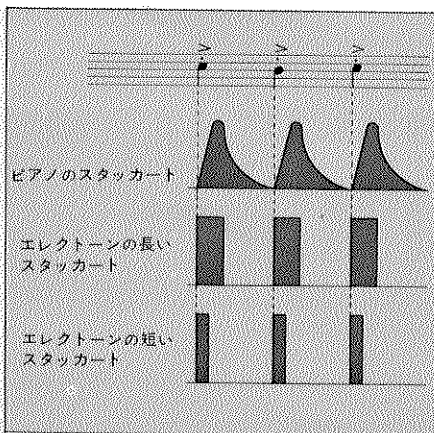
つまり弾く動作よりある程度遅れて音が出てくるのです。ところがエレクトーンではキーをほんの少し押し下げただけで音が出ます。そしてキーを離す瞬間まで同じ強さの音が続いています。ですからエレクトーンをピアノ式のレガートで弾くと音の前後が重なって汚い音になります。

ピアノとは違うタッチで、正しいレガートが弾けるように練習してください。



スタッカート

スタッカートもまたピアノとは大変に違います。ピアノでは普通キーを打ち逃げするので音は一瞬だけであとは固有の減衰をします。ところがエレクトーンではキーを押している時間によって音の長さを変えられます。つまりいろいろな程度のスタッカートが使い分けられるのです。



トーンレバーの操作について

エレクトーンでは、演奏を始める前にトーンレバーを入れておかねばなりません。これをどう組み合わせるか、つまり音色をどう決めるかはふつう楽譜の最初に指定されています。

曲の途中でトーンレバーを入れかえても、一層変化がついて面白くなります。曲の途中での操作に左右どちらの手を使うかは、編曲によって違ってきますが、メロディが途中で切れないように、そのときの都合のよい方の手で入れかえればよいのです。

トーンレバーの入れ方によっては上鍵盤と下鍵盤の音量がアンバランスになることがあります。そのときはバランスャーを使って調節します。

エクспレッションについて

音の強弱、つまり音楽の表情は右足のエクspレッションペダルによってつけます。

クレセンドのときはごくゆっくり、静かに踏みこみます。

ディミネンドのときは、ゆっくりと戻します。しかしこのペダルはあまり使いすぎではいけません。

エクspレッションは、音楽の自然な流れにそって、わざとらしくない程度につけてください。

ヘッドホーンジャックについて

鍵盤の右手下側には、練習のためのヘッドホーンジャックがついています。これにヘッドホーンを接続すれば音は外に出なくなります。夜でもひとり静かに心ゆくまで練習ができます。

故障でない現象 こんな場合は故障ではありません。

故障でない現象でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金をいただきます。
スイッチを入れた瞬間、ポンと音がする

メインアンプ内部に電気が流れたため、エレクトーンが作動する証拠です。安心してお使いください。
ヘッドホーンのスズンという電気の雑音(ハム)が気になる

本体のスピーカーで音を出している時にはあまり気になりませんが、ヘッドホーンを使って練習する際、スズンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがあります。

このような時は、エレクトーンの電源プラグをコンセントへ逆に差し込んでみてください。雑音(ハム)が防止できます。

16、8、4、2、1 それぞれのカブラーによって発音位置が異なる

一般に多くの音栓を持つオルガン、パイプオルガンやエレクトーンでは同時発音が難しく、同時発音しないのが実状です。

ベース鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない

ペダルサステインをかけると前の音と後の音が混り、きたない音になります。これを澄んだきれいな音とするため、前の音は後の音を押した瞬間に消えるような仕組みになっています。同時に2音押すと高音の方のみ(高音優先)音が出ます。
音が割れる(共鳴する、あるいはビビル)

エレクトーンの音は持続音ですから周囲の戸棚や窓ガラス、その他の器物に共鳴する事が多くあります。

音量を小さくするか、または共鳴物を取り除けば防止できます。

時々雑音が入る(ガリッとかボソソソという雑音)

原因は家庭の電気冷蔵庫、洗濯機、電気コタツ、揚水ポンプなど

の電気器具の電源入、切り時、あるいは市街地でのネオンサインの故障、電気ドリルなどから誘導して起こる場合が多くあります。

ネオンや蛍光灯などの故障で発生している場合は修理すれば直ります。

電気製品が原因の場合は、原因と思われる器機からできるだけ遠くのコンセントをお使いください。

原因不明の場合およびご不審な点がございましたら、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談下さい。

ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる

特にピアノと比較した場合に感じるもので、音色を形づくる倍音構成の違いから生じます。

すなわち、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音・低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律します。しかしエレクトーンでは倍音構成が整数倍になっていますので、逆にピアノのようには調律できず、実音で調律します。

このようにピアノとエレクトーンでは本質的な相違があります。エレクトーンと同じ調律の行なわれているものにパイプオルガンやリードオルガンがあります。

それぞれの音色により鍵盤位置による音量のバラツキがある

一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすることが非常に難しいわけです。

エレクトーンではどの音色に変えても演奏上問題のないように設計、調整されています。しかし、音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがありますので、どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係ま

でご相談ください。

上鍵盤のフルート2 $\frac{2}{3}$ '・ストリング

2 $\frac{2}{3}$ ' では f $\frac{2}{3}$ ~ C $\frac{2}{3}$ が出ない

音源の関係でフルート2 $\frac{2}{3}$ '・ストリング2 $\frac{2}{3}$ ' 単独で弾いた時 f $\frac{2}{3}$ ~ C $\frac{2}{3}$ は音が出ません。4'、8'、16' 等とミックスしてお使い下さい。

ラジオやテレビなどの電波が入りこむ

近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局がある場合にこのようなことが起きます。

どうしても気になる場合には、お求めの楽器店あるいは日本楽器名支店エレクトーン技術係までご相談ください。

電源を入れたまま振動やショックを与えると大きな雑音が出る

これは、内蔵のリバーブレーション装置に振動が伝わって起こるものです。このリバーブレーション装置は柔らかいスプリングを使用しておりますので、使用中は大きな振動やショックを与えないようにしてください。

また、エレクトーン設置にあたってはぐらつかないように設置してください。万一移動する必要が生じた場合は、電源スイッチを切るか、リバーブレバーを左にまわしてリバーブがかからないようにしてから移動してください。

フルートやウッドのトーンレバーで弾くと音が出る時にフツツという雑音が入る

これは音の信号を直接鍵盤の下にあるスイッチで入れ切りする時に発生するもので、専門的にはクリックと呼ばれています。

このクリックは弾く曲により、例えばスローテンポでムード的な曲では悪者扱いされますが、パンチのきいた速い曲では非常に貴重で、なくてはならない存在となります。

本質的にこのクリックはなくすることができません。しかしこの

C-50型、C-50T型では、従来このクラスにあった発音時の不快な雑音はヤマハが開発した特殊スイッチにより演奏上支障のない程度に防止いたしました。更に、これらのレバーの効果を最大限に發揮することができるように、アップパー8'、4' サステイン効果のレバーを合わせ持っております。

エレクトーンに鼠が入って故障を起した時

エレクトーンの内部に鼠が入り束線その他を切ったりすることにより故障が発生した場合には、保証期間中でも有料サービスです。

鼠の入るおそれのあるところはお求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。実費にて防鼠処置をさせていただきます。

ブリリアンス効果がフルート系(ウッド)の音できかない

ブリリアンスは抵抗とコンデンサの組み合わせによって、高域の倍音をカットするためにフルート系の音(フルート16'、8'、4'、2 $\frac{2}{3}$ '、ウッド8'、4')のように倍音の少ない音やペダル鍵盤の様に低い音には効果がかかりません。

しかし、ブリリアンス効果はストリングやオーボエ、バスなどの倍音の多く含まれた音により強く作用します。

トレモロ又はコーラスを作動した時に作動音が出る

内部に組み込まれている回転スピーカーが作動して出る回転音ですが、回転部分に精密仕上を施し、演奏上には、支障のない程度の大きさに抑えております。気にならないようでしたら、別にエレクトーンには支障はありませんので、そのままお使いください。

ヘッドホーンを使うとトレモロ効果がかからない

トレモロ効果は、スピーカーを

回転させて“音をふりまき”独特の雰囲気を作り出してくれるわけですが、ヘッドホーンを使った場合はスピーカーへの信号(楽音)が遮断されてしまう為に、トレモロ効果のない音になります。

リズム“スタートスイッチ”、“シンクロスタート”がONにしてあってもリズムが働かない

フットスイッチOFFで曲を終わった場合は必ず、曲の弾き始めに使った“スタートスイッチ”又は“シンクロスタートスイッチ”を一旦OFFに戻してから次の曲に移るようにしてください。

スイッチOFFで曲を終わった場合はリズム“スタート”、“シンクロスタート”スイッチが最初スタートしたときそのままONになっていても働きません

トレモロタブレット(トレモロコーラス)を入れてもトレモロ効果がかからない

トレモロ・コーラスのタブレットを入れただけでは、トレモロスピーカーから音が出てこない為、トレモロ効果はかかりません。必ずボイスタブレットを一緒にに入れてご使用ください。

ビブラートをかけなくても、ベース8'の音色で弾くと1音でうなりを生ずる

ベース8'の音色は、1オクターブの各音程に長3度の音を一定割合で混ぜ合わせ、独特の豊かで美しく力強いハーモニーが得られるように作られています。

その為、1音1音ではゆるい“うなり”を生じますが、曲を弾いた時には美しいハーモニーが生まれます。特にアップテンポの曲やスタカート奏法では抜群の威力を發揮します。スローテンポの曲やレガートな奏法で弾く場合は、Bass 16'の音色を中心にしたレジストレーションの方がよいでしょう。

お徳なサービス依頼法
こんなサービスの依頼をなさるとおとくです。



人間がお医者さんにかかるのと同じように、時にはエレクトーンもエレクトーンのお医者さんにご厄介になることがあります。

特にツユ時と、ツユ明けの頃が病気にかかりやすく、エレクトーンにとっては一番いやな季節です。これはちょうど我々人間にとっても、この季節がいちばん病気にかかりやすいのによく似ています。

でもご安心ください。万一そんな時にはエレクトーンがどんなに

重い病状でも、ヤマハが揃えた専門のお医者さんが直ちに診療し、元通りに、そして再び美しい音楽を奏できるようにしてさしあげます。

こんな時などだれでも心細い思いをするものですが、安心してサービスを依頼し、早く、しかも確実に診療してもらう方法を知っておくと、お得ですし便利です。

どうぞ、末永くエレクトーン健康管理にお役立ててください。

サービスを依頼なさる前に

毎日使用していた電機器具がある日突然動かなくなり、あわててサービス技術者に来てもらったところ、電源コンセントから電源コードが外れていたなどという笑い話のような本当のなしは少なくありません。

サービス技術者をお呼びになる前には、もう一度しっかり確認をしましょう。

1. 必ずコンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。

2. この手引書の32頁にあります「こんな場合は故障ではありません」の項をもう一度ご覧のうえ、ご依頼ください。

3. ご依頼いただきましたサービスにお伺いした際、故障でないような場合でも、点検代と出張経費などの実費を頂戴させていただきます。

お名前、お住まいはハッキリと

1. サービスをご依頼下さる時、お名前、お住まいをハッキリとお知らせください。

特に、アパートおよび他の方と同居なさっていらっしゃる方などは、アパートの名前や〇〇方などの方書きまで詳しくお教えください。また、お訪ねする際の目標物もあわせてお知らせ願います。技術者ができるだけ早くお伺いするために大切です。

2. サービスをご依頼くださるとき、お店からお客さまにご連絡をさしあげることもございますので“連絡方法”もお知らせください。

たとえば電話番号(呼出含む)、お勤め先の電話番号などです。これは、エレクトーンの様子について、いまま少しお聞きしたい時や、万一突発事故によりお約束の変更をしなければならぬ時など、お客さまにご迷惑をおかけしないですみ

ます。

エレクトーンの様子はくわしくお知らせください

1. サービスをご依頼くださるとき、エレクトーンの様子をできるだけくわしくお知らせください。

できれば、実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方にお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、部品不足などの為に再度訪問するなどのご迷惑をおかけすることがなくなります。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけくわしくお知らせください。

たとえば①夜だけ音が小さい。②ある時間だけ雑音が出る。③エレクトーンの音を出さなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出る。④スイッチを入れて10分位、ドの音程が狂うなどをお知らせいただければ、技術者がお伺いしたときに正常で調整不能な場合や誤診をすることもなく、早く確実にサービスができます。

3. エレクトーンの種類、製造番号など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は保証書をご覧になりながらお知らせください。

例えば、エレクトーンの種類名、製造番号、保証期間などです。使用部品が製造時期やモデルにより異なる事もありますので、お手持ちのエレクトーンについて詳細をお聞かせいただくと早く確実にサービスさせていただきます。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客さまや留守勝ちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。

2. 万一、お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。出張料の二重負担が防止できますのでお得です。

3. お店にサービス依頼をされたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも下記にご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

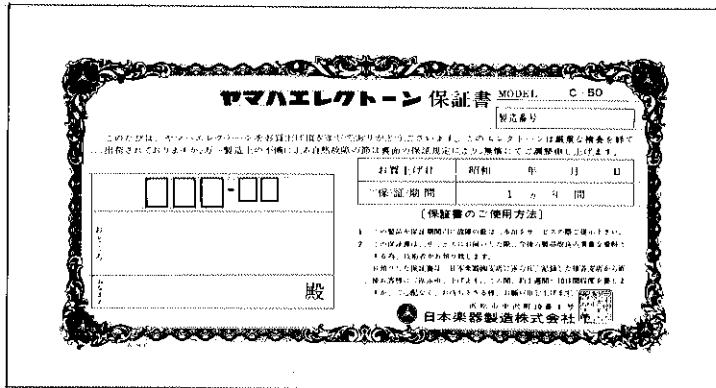
完全な保証とサービスシステム 保証とサービスシステムは完ぺきです。

保証書

エレクトーンの内入れ調整サービスの際、納入調整者が保証書内へ必要事項記入のうえ、お客さまにお渡し申しあげます。

保証書をお受取りの時は、お客さまのご住所・お名前・お買上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。

無記名の場合は無効になりますのでくれぐれもご注意ください。



保証

エレクトーン、及び内蔵のカセットテープデッキの保証は、保証書によりご購入から満1カ年です。

ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

また保証は日本国内にてのみ有効です。

保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。

万一の場合に備えて、いつでもご提示いただきますように充分ご配慮の上で保管してください。

また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺い致します。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお願い申しあげます。

アフターサービス

1: 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2: 内蔵のカセットテープデッキが不調の場合には、エレクトーン本体よりカセットテープデッキを取り外し、保証書を添えて販売店にご持参の上、サービスをお申し付けください。(カセットの項参照)

3: 調整いたしました時には、必ず保証書をご提示ください。ご提示なき場合、あるいは紛失なされた場合には保証期間中でも有料になります。

4: この保証書は、サービスにお伺いした時に今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。

お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間~10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申しあげます。

5: お買上げ楽器店より遠方に移転される場合は、事前にお買あげ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますと同時に引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続きいたします。

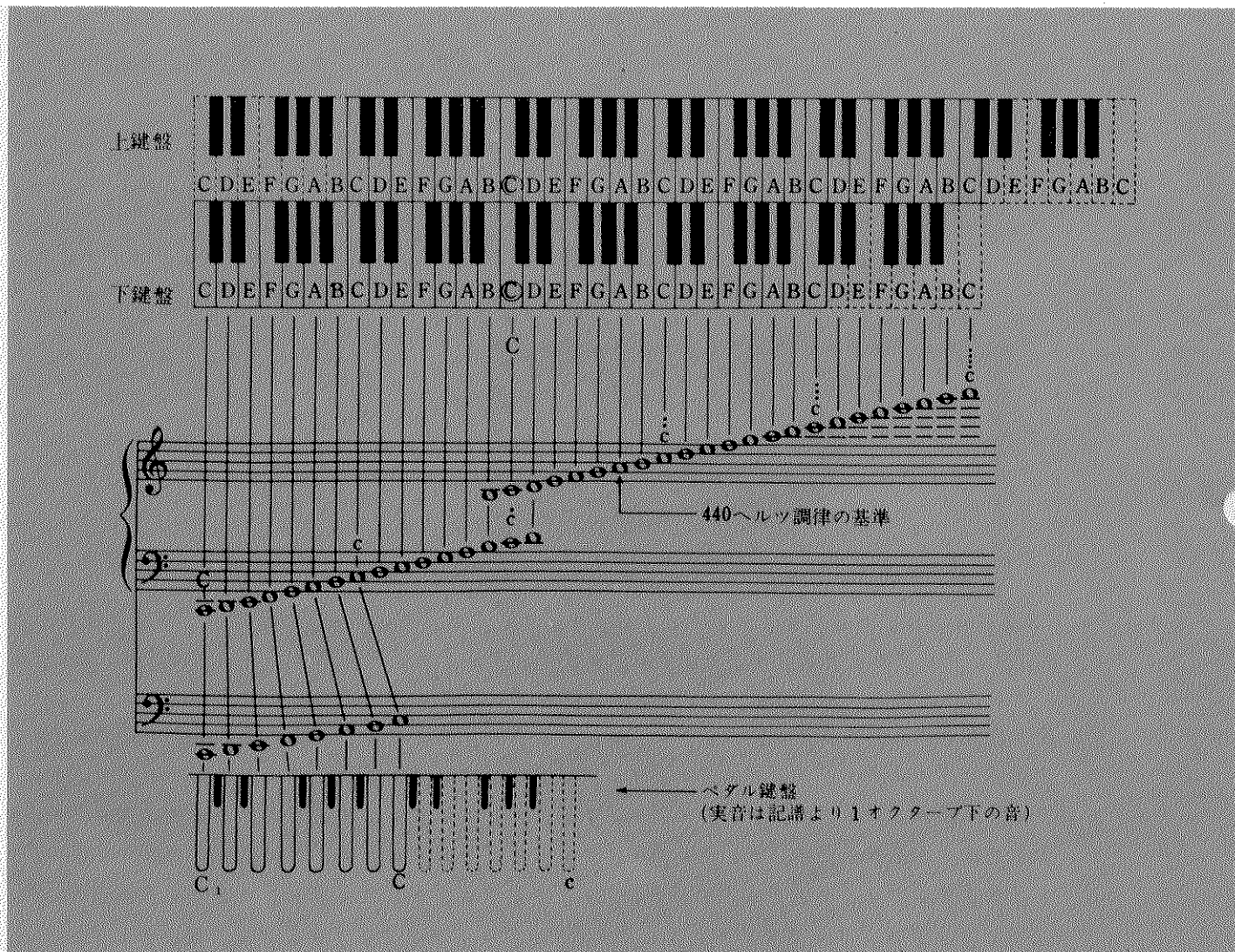
保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、いつまでも責任をもってサービスをさせていただきます。

保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら移転先の楽器店をご紹介いたします。

エレクトーンをより理解していただくために。

エレクトーンの音域



演奏はこうして

レガートについて

ピアノの場合、キーをたたくとそのキーが下がりきったあたりでハンマーが弦をたたきます。つまり弾く動作よりある程度遅れて音が出ているのです。

ところがエレクトーンではキーをほんの少し押しただけで音が出ます。そしてキーを離す瞬間まで同じ強さの音が続いています。

ですから、エレクトーンをピアノ式のレガートで弾くと音の前後が重なって汚い音になります。ピアノとは違うタッチで正しいレガートが弾けるように練習してください。

1：スラー（—）のついているフレーズや、何も書いてない場合（メロディ・パート）は原則としてレガートに弾きます。

2：初めから終わりまで全部レガートに弾いてはかえってその効果が少なくなります。フレーズの切れ目でちょっとプレス（息つき）が必要です。

3：鍵盤が軽いからといって、軽くキーを押さえますとかえってレガートになりにくいのです。形を正しく、しっかりと弾きましょう。

4：指使いが難しくレガートになりにくい所や、早いパッセージなどで指がうまく動かない時は半音上げるか、半音下げるか、移調し

て練習すると効果があります。

5：重音のレガートはしばしば指変えが必要です。重音のパートをとり出して練習しましょう。

6：自分ではレガートに弾けているつもりでも、実際は音が切れていることがしばしばあります。レガートには特に注意しましょう。

スタッカートについて

スタッカートもまたピアノとは大変に違います。ピアノではふつうキーを打ち逃げするので、音は一瞬だけであとは固有の減衰をします。

ところがエレクトーンではキーを押している時間によって音の長さが変わります。つまり、いろ

いろいろな程度のスタッカートが使い分けられるのです。

1:左手のリズム伴奏の時はとくに指定のない場合でもスタッカートで表わします。一般的に、リズムミカルな感じの曲では短めに、またゆっくりした曲では長めの方が効果があります。実際にはいろいろな長さで演奏してみて、メロディ・パートに合う長さで演奏するようにしましょう。

2:メロディ・パートは指定のある時、スタッカートを弾きます。

3:手の形を正しく、鍵盤の底に届くようにしっかりと弾くようにしましょう。

フレーズのエクスペッション

1:自然な音楽を創るためにフレーズの入りは弱めに、またフレーズの終りも少し弱めにすると美しく聞こえます。

2:フレーズのエクスペッションは急激な操作ではなく、少しずつゆっくり操作します。

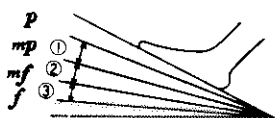
3:メロディ・パートは歌うような軽やかな表情をつけます。(メロディをよく聞きながら表情をつけます。)

4:クレッシェンドの時は少しずつ操作しやすいのですが、ディミヌエンドの時に早くなりやすいので気をつけましょう。

曲全体のエクスペッション

1:楽曲はいくつかのフレーズが集まって一曲を構成しています。ですから曲全体にfのフレーズは強めに、pのフレーズは弱めに、つまり全体のバランスを大切にしましょう。

2:波をうつような不自然な音は右足の操作がスムーズでないことが原因です。聞いていて自然な感じの美しい音楽を創りましょう。



● エクスペッションの注意

1:クレッシェンドの時、強拍のところが一番強いのが自然です。

2:曲全体の表情は初めのうちは意識的につけて、なれてきたら無意識に自然な表情がつけられるようにしてください。

3:リズムミカルな曲は小さなアクセントがあってもよい感じのものになります。

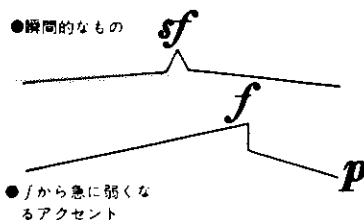
● アクセントについて

1:急激に踏み込み、そして戻すとアクセントになります。

2:いつもアクセントをつけると全体の感じはアクセントになりません。

3:戻す音は、すばやく操作します。

4:初めはアクセントをつけず、フレーズのエクスペッションが十分身についてから操作するようにしましょう。



● 基音と倍音について

● 基音とは

発音体の振動は、いくつかの部分音の集合と考えられます。その場合、振動体の基本振動によって生まれるもっとも振動数の少ない部分を基音といいます。

一般的には、板や膜の振動によって生まれる音は基音を中心に構成され、弦の振動によって生ずる音にはたくさんの倍音が含まれています。

● 倍音とは

倍音とは、基音の振動数に対して、整数倍の振動数を持つ音で、その倍数によって、第2倍音、第3倍音、第4倍音……第n倍音と名づけられます。

倍音は豊かな音色を形成し、基音の高さを明確に感じさせる機能をもっています。

C-50、C-50Tのトーンレバーでいえば

フルート

基音が強く、倍音が少ししかありません。従って単純ですが少し暗い感じの音がします。

ブラス

金管楽器の高い倍音までたくさん含まれた、より複雑な鋭い感じの音です。

オーボエ

ダブルリードの楽器で、基音よりずっと強い倍音を持っているのが特徴です。

ストリング

弦楽器の音は、ずっと高い倍音まで豊富に含まれています。そのため複雑で豊かな音色になります。

ウッド

木管楽器の音で、フルートと同じような単純な音ですが、いくらか倍音が入って明るい感じになっています。

ホルン

ホルンには、特に強調された倍音はありません。しかし一定の比率で弱まりながらも、ずっと高い倍音まで含まれているという特徴があります。そのためクセのない豊かな音になっています。

チェロ

ホルンにくらべて、やや倍音が強調され、やわらかく自然な音色となります。

バス

基音が強く、倍音が少ない音です。

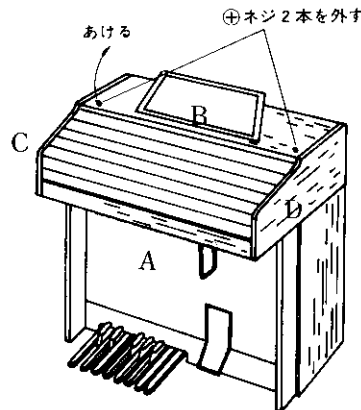
やさしい調律法 だれでも簡単に調律できます。

やさしい調律法

エレクトーンの開け方

調律および調整箇所は内部にあります。ドライバーで図示の通り天屋根部分の⊕ネジ2本をはずすだけで心臓部が現われます。

- 1：天屋根のネジ2本をはずして開ける。
- 2：スライド蓋を引き出し、外装にキズをつけないように静かに取りはずしてください。
- 3：スライド蓋の持ち方は、A B点を持ち、C D点は持たないでください。



エレクトーンC-50・C-50Tはリピートスピードの速さ、ビブラートの速さなどあらかじめ標準状態に調整してありますが、お弾きになる方の好みに合わせて調整していただけるようになっていきます。

また他の楽器とピッチを合わせる必要が生じた場合など、エレクトーン技術者でなくても必要に応じて簡単に調律できるよう配慮してあります。

トランジスタ回路になっていますから電圧が低く、感電の心配はまったくありません。

各部調整方法

各部の調整には、必要以外のところに金属で触れないでください。回路部分が損傷することがあります。

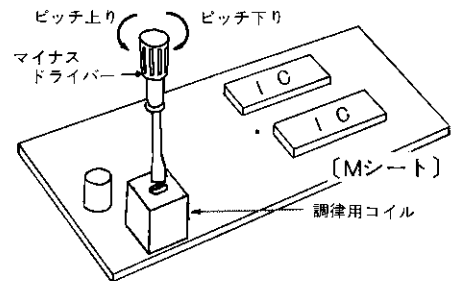
調律の仕方

エレクトーンの調律は殆んど必要ありませんが、エレクトーン全体の音を移動させたい時のみ、図のようにMシート内（プリント基板格納図参照）のコイルをドライバー（小型）で調整します。

調律の際には、聞きわけやすい音色（例えばフルート8'）で、中央のA₃音(440Hz)を押し、音又などと比較しながらコイルを回してください。

※普通の場合、半回転以内で25へ

ルツ程度変化しますので回しすぎないように注意してください。一つ一つの音が狂っている場合とか、全体が極端に狂っているような場合には手を触れずに、お求めの楽器店にご連絡ください。

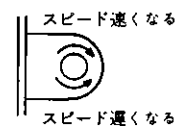
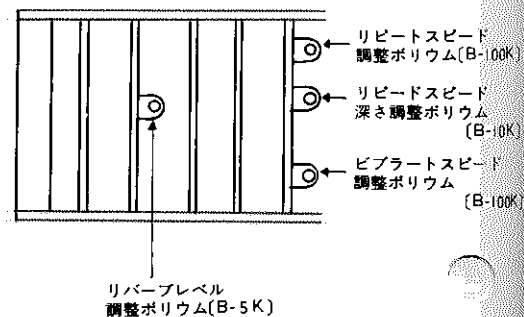


リピートスピード調整

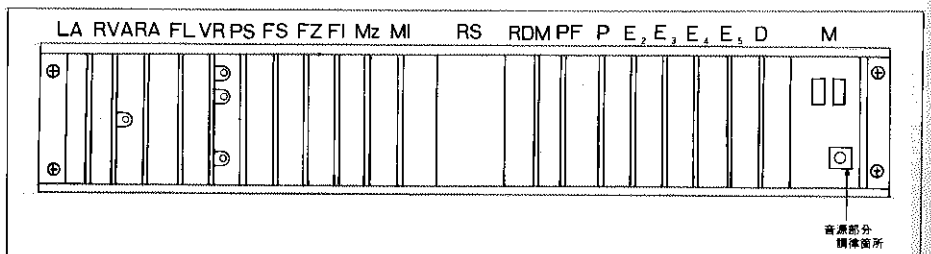
プリント基板格納図中ビブラート、リピートスピードシート(VR)の中に調整用のボリュームがあり、調整方法は下図の通りです。

ビブラートスピード調整

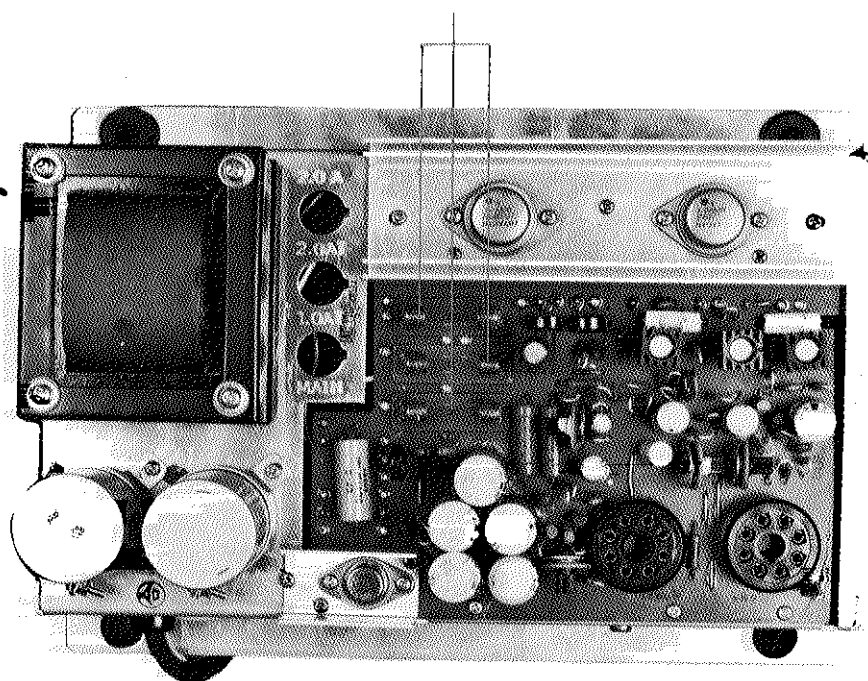
リピートスピードと同じプリント基板にあり、右に回転すると速くなり、左に回転すると遅くなります。



プリント基板格納図



ヒューズの交換 エレクトーンの心臓部もいらんがたい。



ヒューズ交換

通常の場合、ヒューズの切れることはありませんが、内部の故障や電源の異状ショック、また長い間使用してヒューズが弱ってきた場合などに切れることがあります。

万一切れた場合には、内部メインアンプ部分の手前側板にサービスヒューズが2本用意してありますのでお取り換えいただくことができます。裏板を外しますと左側にアンプがあります。

ヒューズを交換してもすぐ切れるようでしたら内部が故障していると考えられますので、アンプの内部には手を触れず、お求めの楽器店にご通知ください。エレクトーン技術者が直接お伺いします。

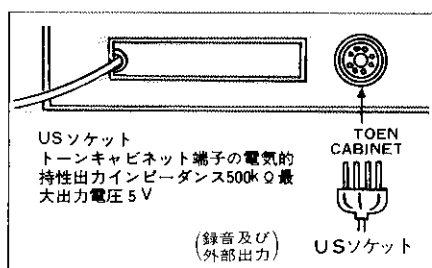
ヒューズ交換の際の注意

メインアンプには3本の普通ヒューズが使われています。これらはいずれも電流容量 2.0Aのガラス管入りヒューズです。

ヒューズの交換には必ず同じ電流容量のものを用いてください。ヒューズを使わず、針金や銅線などの代用は絶対にしないでください。万一使用しますと内部を損傷しますから、くれぐれもご注意ください。

トーンキャビネット端子

大きな音量が必要な場合には、トーンキャビネットをこの端子に接続してください。



EXT-IN(外部入力)端子

エレクトーンカセットデッキを接続する入出力兼用端子です。その他、テープレコーダー、リズムボックスなどの再生にも使用できます。

入力インピーダンス…………… 30KΩ
入力電圧…………… 200mV

AUX-IN(ライン入力)端子

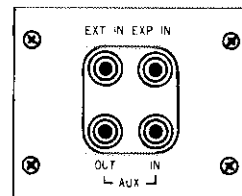
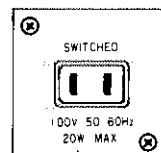
右側棚板下にあります。レコードやテープの曲をエレクトーンから出し、これに合わせて競演を楽しむことができます。

入力インピーダンス……………約100KΩ
入力電圧(最大)……………440mV

AUX-OUT(ライン出力)端子

この端子は、テープレコーダーに録音したり、他のアンプに接続する場合に使用します。

出力インピーダンス……………約600Ω
出力電圧……………500mV



右棚板下の図です。

EXT-IN(EXP連動入力)端子

リズムボックス、シンセサイザーなどを接続しますと、エレクトーンのEXPペダルで音量変化が得られながら再生できます。

入出インピーダンス……………100kΩ
入力電圧(最大)……………775mV(OdBm)

仕様

こうして生まれるエレクトーンの美しい音。



仕様

■鍵盤

上鍵盤 49鍵, 4 オクターブ (C~C₄)
 下鍵盤 49鍵, 4 オクターブ (C~C₃)
 ペダル鍵盤 13鍵, 1 オクターブ (C₁~C)

■トーンレバー

上鍵盤 (12)
 フルート16', トロンボーン16'
 フルート8', プラス8'
 オーボエ8', ストリング8'
 フルート4', ストリング4'
 フルート2', ストリング2'
 パーカッション2', 4'

下鍵盤 (5)

ウッド8', ホルン8', チェロ8'
 ウッド4', チェロ4'

ペダル鍵盤 (2)

バス16' バス8'

■エフェクトレバー

リビートスピード (上鍵盤)
 ビブラート (全鍵盤)

■コントロールレバー及びツマミ

ブリリアンス (上下鍵盤)
 アッパーパーカッションレングス (上鍵盤)
 リバープ (上下鍵盤)
 マニュアルバランス (上下鍵盤)
 リバープバランス (上下鍵盤)
 トレモロスピードコントロール (上下鍵盤)
 ペダルサステイン (ペダル鍵盤)
 トータルボリューム

■タブレット

ボイス
 トレモロ
 コーラス

■その他

ニーレバー, エキスターナルジャック, パ
 ワースイッチ, エクスプレッションペダル,
 ヘッドホーンジャック, トーンキャビネッ
 トコネクター

■トランジスター 184個

■IC 10個

■メインアンプ

2 SC898 SEPP60W (8 Ω)

■スピーカー

■トレモロスピーカー

■消費電力

100V 50/60Hz 130W

■外装

スライド蓋

本体 仕上 ジアレルフタレートアメリカン
 ウォルナット仕上げ

間口 1138mm 奥行 660mm

重量 88kg 高さ 943mm(譜面台を
 立てた時1135mm)

椅子 仕上 本体と同一仕上

間口 660mm 奥行 350mm

高さ 555mm 重量 6kg

■オートリズム

リズムセクター

その他スタートスイッチ・シンクロスター
 トスイッチ・フットスイッチ・テンポコン
 トロール・テンポインジケータランプ・
 オートリズムボリューム・バランス

C-50Tのみ

■カセットテープデッキ

周波数特性: 50~10,000Hz

MIC-66dBm(0.5mV)

入力インピーダンス 4.7KΩ

ピッチコントロール: ±3% (再生時のみ)

使用半導体: トランジスター19, ダイオー
 ド10

消費電力: 5W

電源: AC100V 50/60Hz

寸法: 奥行231×幅165×高さ73mm

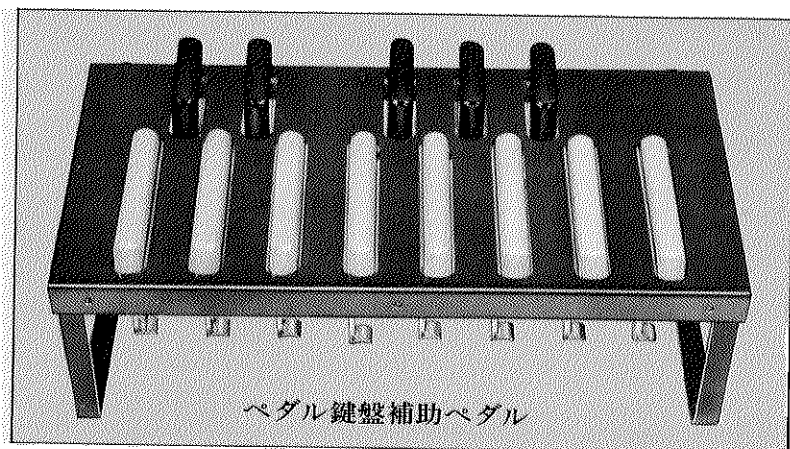
重量: 1.7kg

付属品: マイク, ヘッド清掃用綿棒,

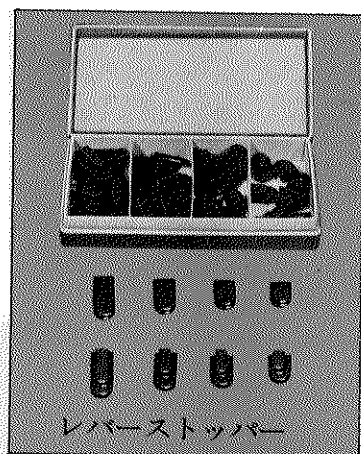
弾く楽しみをさらにひろげるアクセサリ

アクセサリ

下記のアクセサリはエレクトーン用として楽器店にて販売致しております。エレクトーン各機種に共通でご使用いただけますのでご利用ください。



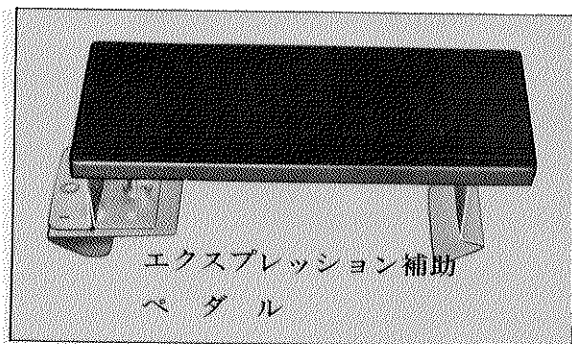
ペダル鍵盤補助ペダル



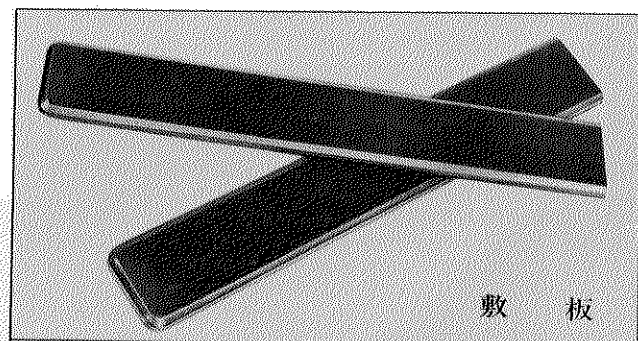
レバーストッパー



ヘッドホーン



エクスプレッション補助
ペダル



敷板



日本楽器製造株式会社

- 本社・工場=〒430-91 浜松市中沢町10-1
TEL0534(61)1111
- 東京支店=〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL03(572)3111
- 銀座店=〒104 東京都中央区銀座7-9-14
TEL03(572)3111
- 渋谷店=〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL03(463)4221
- 池袋店=〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL03(981)5271
- 横浜店=〒220 横浜市西区南幸2-15-13
TEL045(311)1201
- 相鉄店=〒220 横浜市西区南幸1-5-1/相鉄ジョイナス内
TEL045(311)6361~4
- 千葉店=〒280 千葉市中央4-2-1/まつだやビル内
TEL0472(24)6111
- 大阪支店=〒564 吹田市新芦屋1-16
TEL06(877)5151
- 心斎橋店=〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL06(211)8331
- 梅田店=〒530 大阪市北区梅田1/阪神百貨店5階
TEL06(345)4731
- 神戸店=〒650 神戸市生田区元町通り2-188
TEL078(321)1191
- 四国店=〒760 高松市丸亀町8-7
TEL0878(51)7777
- 名古屋支店=〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL052(201)5141
- 九州支店=〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL092(431)2151
- 福岡店=〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL092(721)7621
- 小倉店=〒803 北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL093(531)4331
- 北海道支店=〒060 札幌市中央区南三条西4-12/エイトビル内
TEL011(281)6111
- 仙台支店=〒980 仙台市1番町2-6-5
TEL0222(27)8511
- 広島支店=〒730 広島市紙屋町1-1-18
TEL0822(48)4511
- 浜松支店=〒430 浜松市鍛冶町122
TEL0534(54)4111
- 海外支店=ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール
フィリピン
- 上記の本社・支店のほかに、全国1400の特約楽器店によるサービス・ネットワークがございます。お気軽にご利用ください。